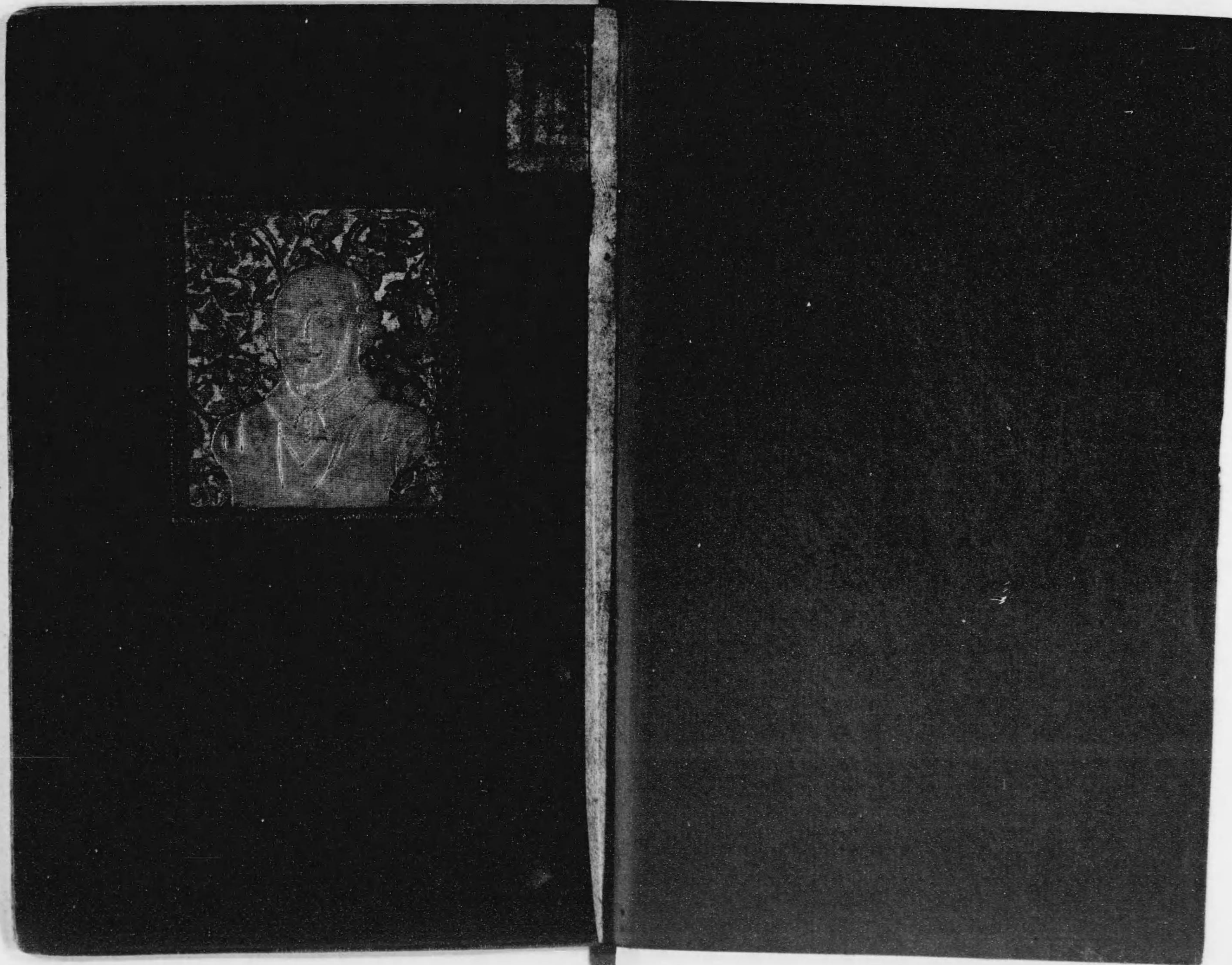




始









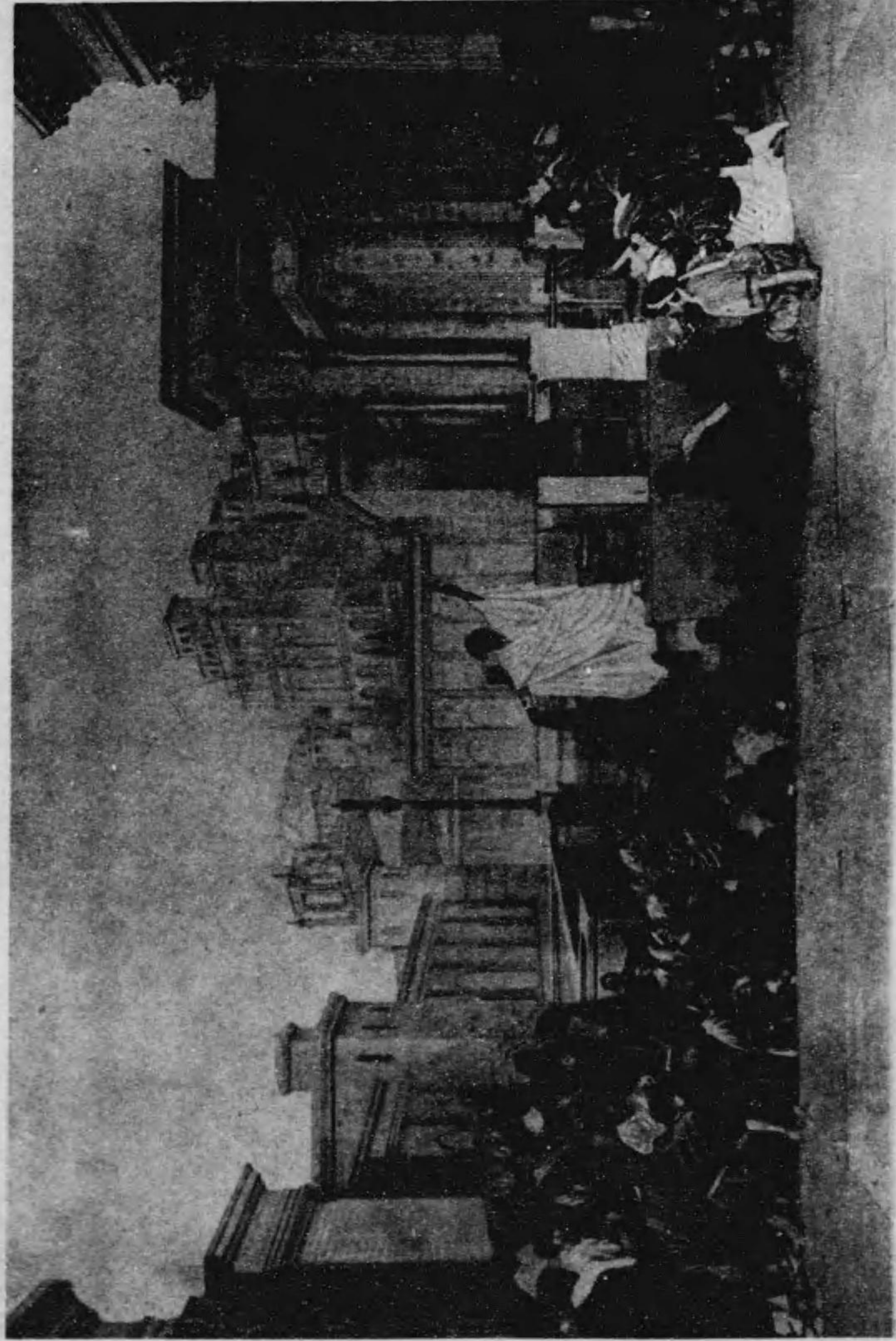
III. 1<sup>re</sup> Partie

—ALGER CEZIK—

THEATRE NATIONAL DE L'ODEON

(11<sup>me</sup> Mars)

REVUE-VIZIOISE





338-142



ジュリアス  
シーザー

坪内逍遙譯

大正  
2. 4. 18  
内交

MARC-ANTOINE  
(M. de Max)

THÉÂTRE NATIONAL DE L'ODÉON.

—JULES CÉSAR.—

III. *Le Forum.*



續言

此作の出版せられしは一千六百二十三年を最初とす。  
其著作年月は詳かならず。一千五百九十九年よりは早  
からざるべく、一千六百〇一年よりは晩からざるべし。  
作者三十六七歳の時の作ならん。

ジュリヤス・シーザーの事蹟を材とせる脚本は此作以前に



もありしが、沙翁はそれらに負ふ所なきものゝ如し。但しブルタークの「列傳」中なるシーザー、ブルータス、カシヤスの諸傳は、ノオスの譯書によりて、十分に利用したりと見ゆ。事件も人物は大抵は史實のまゝなり。随つて此劇の筋立は、作者の空想に成れるものといはんよりも、ブルタークの叙事を劇化したるものといはんかた當然なり。人物の白の如きも、「列傳」中の散文を詞化し、敷衍し、潤色せるに過ぎざるもの尠からず。もつとも、ブルータス、カシヤス等の性格はブルタークが叙せるよりも理想化せられ、シーザーの如きは、作意上の都合にてか、或は他に

理由ありてか、正史に傳へられたるよりも遙かに劣小なる人格として寫されたり。

ブルータスの庭園内にての長き獨白の如き、其公演壇にての演説の如き、乃至彼の有名なるアントニーの哀悼演説の如きは全く作者が空想の所産なり、ブルタークには只僅かにアントニーが巧みに民衆を動かし、由を暗示せるのみ。

明治十六年出版の「該撒奇談」(自由太刀餘波銳鋒)は予が沙



翁劇の最初の翻譯なるが、東京大學在學中の筆にして譯の體式もほしいまゝにして誤譯多く、此回の譯文とは何等の交渉もあらず。

カピトルを議事堂と譯したるは通俗の爲のみ、正しくは大神殿などゝすべし。此の如き例尙一二あり。

登場人名

ジュリヤス・シーザー

オクテール・ギヤス・シーザー

マーカス・アントニヤス

エミリヤス・レピダス

シセロー

パブリヤス

ポピリヤス・リナ

シーザー死後の三執政官。

元老議官。



の

マールカス・ブルータス

カスカ

ツレボニヤス

リゲーリヤス

デシヤス・ブルータス

メテラス・シンバア

シンナ

フレーギヤス

マラ、ス

アーテミドラス、ナイドスの一學者。

ジュリヤス・シーザーを  
除かんとする徒黨。

平民保護官

一 豫言者。

シンナ、詩人

他の一詩人。

ルシリヤス

タイチニヤス

メツサラ

若ケート

ドラムニヤス

ブロー

クライタス

ブルータス、カシヤスの黨人。



登場人名

クローディヤス

ストレートー

ルシヤス

ダーダニヤス

ピンダラス、カシヤスの従者。

ブルータスの従者。

カルパアニヤ、シーザーの妻。

ポオシヤ、ブルータスの妻。

元老議官等、市民等、護衛等、侍者等、其他。

場所。

大概是羅馬市。後にはサーデイス及びフィリツ  
パイ附近。

登場人名



第一幕 第一場



# ジュリヤスシーザー

第一幕

第一場——羅馬。街頭。

フレীগヤス、マラス及び若干の平民出て来る。

フレイ  
去つちまへ、歸つちまへ、懶惰漢め、歸つちまへ。  
今日は休業日か？ え？ 職人の癖に貴様ら



は知らんか？ 仕事日には職業の目標を附けんで出歩いてはならん筈だぞ。貴様の商賣は何だ？

一市民 へい、あの大工で。

マーセ 革の前垂は何處にある？ 定規は？ 餘所行服を被て何をしてゐる？ お

い、お前の商賣は何だ？

二市民 さいな、品のえい職人衆に比べればなあ、此方共は高が補綴屋でもあらう

けれどな。

マーセ いやさ、商賣は何だといふのだ？ それを言はつせい眞直に。

二市民 さあ、其商賣をなあ、此方は日頃悪いこつちやとも思うてはをらんのおや

がなあ、底が悪ければ直しませうかいな？

マーセ 其處とは何處だ？ え、此没分曉漢めが、貴様の商賣を訊いてゐるのだ？

二市民 あゝもし、そないに機嫌を損じさつしやりますない、貴下さんの損じを直

すのは此方の商賣ちやけれどなあ。

マーセ 何だ？ 直す見事乃公を！

二市民 いゝえいな、貴下のお靴をな。

フレ ちやお前は靴直しだな？

二市民 さいな、全く針一本が此方の資産でござります。針は使へどもな、決して

餘所外の商人衆と張合もせねば突合もしませんわいな。あの、予は古靴の

下科醫者でござります。どないな靴の難病をも、たつた針一本で治します

がな。凡そ柔革を踏ましやりますお歴々で、此方へ御用を仰せつけら

れませぬ方はござりませぬわいな。

フレ だが、何故今日店を空けるのだ？ 何故此手合をあちこちと引廻してゐる

のだ？

二市民 さいな、歩かせれば靴が傷みまする、すれば此方の商賣が繁昌しまするで



なあ。……いや、全くは、シーザーさんのお目出たい勝軍のお祝に、仕事を休んだのでござります。

マーセ

何故祝ふんだ？ 何が目出たいのだ？ 如何いふ勝軍だと思つてゐるんだ？ シーザーの戦車の鎖には敵國の名譽の捕虜でも繋かれて來ると思つてゐるのか？……お、木とも石とも無感覺とも言ひやうのない無情酷薄な素町人めら！ ポンペイを知らん貴様らか？ 貴様らは、大ポンペイが羅馬へ凱旋するのを待ち構へて、幾たびも石垣や城壁や塔や窓や煙突の頂上へまでも攀登つたぞよ、腕には幼児を引抱へて、氣長にも一日がゝりで。さうして其戦車が微とも見えて來ると、貴様らは何時も一齊に大喝采をしをつたので、タイバア河の凹んだ岸が其爲に反響して、河底が震動した位のものだ！ 然るに今となつて、其様に晴衣を被飾り、職業までも休んで、ポンペイの血族を滅いて凱旋する其男の馬前に花を撒

くとは何だ？ 去つちまへ！ 家へ駆戻つて、土下座をして、神さまに詫びろ、さうでないとな今に天罰の疫病が恩を知らぬ貴様らの頭の上へ降つて來るぞ。

フリー

さあ、お前たち、早く歸つて、此罪ほろぼしに同輩の職人どもを驅集めて、タイバア河へ伴れて行つて、懺悔の涙を河へ泣き込め、それが爲に河の水が増えて、波が岸を越すやうになるほど。……

平民等みなく入る。

卑劣な奴等でも、言ひ聞かせれば、流石に感動せんこともない。悪かつたと思へばこそ何にも能う言はんで去つちまつた。……君は其方の方を、議事堂の方へ見廻つて下さい。予は此方を見廻らう。王冠などを被せた像があつたら、引剥いて下さい。

マーセ

引剥いても可からうかね？ 今日にはリユーバアカルの祭日だが。



フリー

かまはない。シーザーの爲にする飾物は、決して容赦すべきでない。見附次第手は平民どもを追拂ひませう、君も、彼奴等が集つてゐたら、さうして下さい。シーザーの翼の小羽根が段々と殖えるのを、今の中に抜いてしまへば、彼奴高翔が出来なくなるが、さうでないとも達かんやうな處まで舞上るだらう、すると、我々は目下に見られて、始終戦々してゐねばならぬ。二人とも入る。

第二場 同處。大通り。

音楽につれて行列をして出て来る、眞先にシーザー、つゞいて競走の身支度をしてゐるアントニー、カルバアニヤ、ボオシヤ、デシヤス、シセロー、ブルーダス、カシヤス、及びカスカ。其後より市民大勢其

中にまじりて一人の豫言者。

シーザ カルバアニヤ！

カスカ しつゝ！シーザーのお發言ぢや。

音楽止む。

シーザ カルバアニヤ！

カルバ はあ、お前に。

シーザ アントニーの直前に立つておいでなさいよ、彼が競走を始める時分に。…

…アントニヤス！

アント シーザー閣下。

シーザ アントニヤス、君が駈出した際に、忘れないでカルバアニヤに觸つてやつて下さい。老人連の話に、子の無い女も、此神聖な競走で男子に觸つて貰

66



へば、石婦の呪をまぬかれるといふことぢや。  
心得ました。シーザーが「斯う爲い」とお命じある以上は、必ず實行いたします。

シーザ はじめい。決して式を略くな。

音楽はじまる。

豫言 シーザー！

シーザ や！呼ぶのは誰れぢや？

カスカ 音楽をやめい。しつゝ、静かに！

音楽止む。

シーザ 群衆中で予を呼ぶのは誰れぢや？ 樂の音よりも甲走つた聲で「シーザー！」と呼んだ。返辭をせい、シーザーは聞かうとしてをるぞ。

豫言 三月の十五日を御警誠なさい。

シーザ あれは何ぢや？

ブルー 豫言者らしい者が三月の十五日を御警誠なさいと申すのです。

シーザ こゝへ伴れて来て下さい、其奴の面を見よう。

カスカ こりや、こゝへ出てまゐつて、シーザーにお目にかゝれ。

シーザ お前は予に何を言ふのぢや？ もう一度言へ。

豫言 三月の十五日を御警誠なさい。

シーザ こいつは空想家ぢや。うつちやつておけ。進め。

センネット 調の喇叭。ブルータスとカシヤスだけ残りて皆々入る。

カシヤ 競走の式を覽においでなさらんか？

ブルー 予は往きません。

カシヤ まあ、おいでなさいよ。

ブルー 予は遊戯事を好きません、アントニーのやうな快活な氣分に乏しいはう



ですから。カシヤス、どうか予にはお介意なく。予はこれでお別れしま  
せう。

カシヤ ブルータス、つい近頃心附いた事ぢやが、貴下の子を見る目附に以前のや  
うな柔和みもなければ愛情も見えない。貴下は信友に對して、甚だ酷薄  
な、冷淡な態度を取らうとして居られるやうに思ふ。

ブルー カシヤス、誤解をしちや不可。或は考へ込んでゐたことがあつたかも知れ  
んが、其心配顔の所因は全く予の一身にのみ關する事です。予は近來兩立  
させがたい二つの情の爲に苦しんでゐる、それで素振が變つて見えたでも  
あらうが、それが爲に親友に——カシヤス、君が其一人だが——君なんぞ  
に心配を掛けたくない。或は無愛想な振舞をしたかも知れんが、それは全  
くブルータスの心中に苦しい戦争がある爲で、他に理由があるなぞと思つ  
て下さるな。

カシヤ

ちや予は大變に貴下の感情を誤解してゐた、それが爲に、大切な、是非話さ  
ねばならんことを今日まで此胸に藏めてゐた。ねえ、ブルータス君、貴下  
は自分で自分の顔が見えますか？

ブルー

見えない。目は何物かの反射を借りないでは其自身を見ることは出来ん。  
其通り……ブルータス、それが甚だ歎かましいのです、貴下が自分の隠れ

カシヤ

た價値を、自分の影を、おのが目に見せるだけの鏡を有つてゐないのが歎  
かましいのです。予は羅馬の名士等が、——あの神のやうなシーザーだ  
けは別ぢやが、——現代の軛に壓へ附けられて伸吟きながらブルータスの  
噂をしては、あゝブルータスどのに目があつたらばと残念がるのを聞きま  
した。

ブルー

カシヤス、君は予を如何いふ危険へ誘はうとするのだ、予が有つてゐませ  
んものを有つてゐるやうに思はせて？



カシヤ だから、お聞きなさい、ブルータス、貴下は自分で自分を照らして見る事は出来ん、それだから、予が鏡になつて、貴下の知らん貴下の正當な資格を見せようとするのです。ブルータス君、予を危険がるには及ばん。予が平生戯談口を吐いたり、出逢ひ放題に莫逆を誓つたり、前で追従を言つて蔭で悪口をしたり、宴席で以てそこに居る限りの者を信友にしてのけるやうな男てゝもあつたら、危険ともお思ひなさるが可い。

喇叭の聲盛んに起りて喝采する聲が聞える。

ブルー あの喝采は何だらう？ 若しや公衆がシーザーを王に選びはしないか知らん。

カシヤ 貴下はそれを氣に掛けるね？ ちやあシーザーを王にしたくはないのですな。

ブルー さやう、併し予はシーザーを愛してゐます。……それはさうと、何故君は

カシヤ プルータス、貴下にさういふ節操の有ることは、予は貴下の顔を知つてゐる程に善く知つてゐる。ところで其名譽といふことが予の言はうとする要點なのです。貴下や他の人達は目下の生活を如何思つて居られるか知らんが、少くとも予一個は自分と同様の人間を怖れて生きてゐる位ならば死んだ方が優だと思ふ。予はシーザー同様に自由の國民に生れたのぢや。貴下とてもさうぢや。我々とても彼れ同様に飲食もしたれば冬の寒さに耐へることも出来る。現に嘗て風すさまじく吹荒れた或冬の日、タイバア河の怒濤逆巻く岸頭に立つてゐて、シーザーが予に言ふには「カシヤス、君

斯うして何時までも予を引留めるのです？ 何を予に話さうといふのです？ 若しそれが國家全般の利害に關する事であるなら、予の一眼には名譽を、一眼には死を見せて下さい、予は双方を無差別に見ませう。神々も照覽なされ、予は死を恐れるよりも寧ろ名譽を重んじます。



は此狂浪の中へ予と一しよに飛込んで對岸へ泳ぎ抜く勇氣があるかと。  
 予はそれを聞くや否や、衣類を着たまゝで飛込んで、さあ尾いて來いと言  
 つたところ、彼れも同じく飛込んで、轟き渡る急流を血氣に任せ拔手を切  
 つて、掻き分け蹴分け眞一文字に、互ひに負けじと争つたが、まだ對岸に着  
 かんうちに、はやシーザーめは「助けてくれ、カシヤス、沈む〜」とわめき  
 をる。予は、彼先祖のエーニヤスがトロイ落城の其砌に、火焰の中から父  
 アンカイシーズを肩に掛けて救ひ出したまつ其様に、タイバア河の波間か  
 ら彼シーザーめを救ひました。然るに今、其男は神と崇められて、カシヤ  
 スはみじめな人間ぢや、若しシーザーが願を一つしやくりでもすれば、此  
 腰を屈げねばならん。……西班牙に居つた頃、彼奴瘡をわづらつて、發作が  
 始まれば、ふる〜と慄へをつた、現人神がふる〜と慄へて、臆病な唇は  
 眞蒼になり、今日一睨すれば世界を戦かす其眼も光を失ひ、うん〜と唸

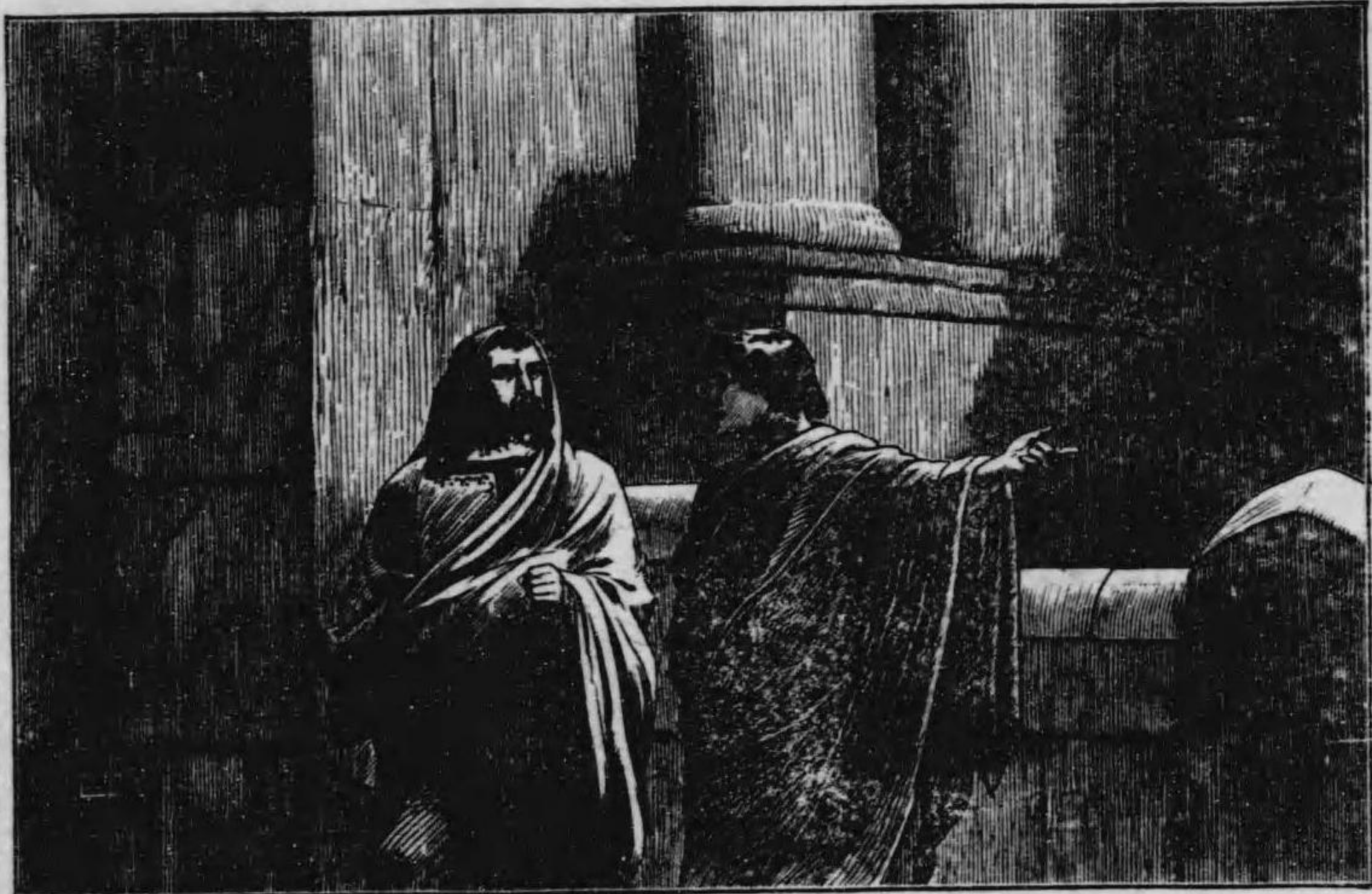
きをりましたぞよ。いや、全くぢや、今日口を開けば全羅馬人に耳を敬て  
 させ、片言隻句をも其手帳に書留さする其舌が「あゝ苦しい！ タイチニヤ  
 ス、何か飲むものを〜」と病んだ小娘のやうに叫びましたぞよ。あゝ奇  
 怪千萬なことぢや、あんな孱弱な奴が此大世界の先登者となつて、獨りで  
 名譽をほしいまゝにするといふは。

喝采の聲、喇叭の聲

ブルー  
 また大勢で喝采をする！ あれは何かシーザーへ、新たに重ね〜榮譽を  
 獻げようとするものがあるので、それを喝采するのであらう。

カシヤ  
 ねえ、ブルータス、彼奴は巨像のやうに世界を狭しと踏みはだかつて居る  
 のに、我々小人どもは、其巨きな脚の間に踞踏つて、みじめな墓場を捜さう  
 として、覗いてゐるのぢや。人間は往々にして運命の主となる。ブルータ  
 ス、我々が斯なに劣者となつてゐるのは、其罪我々の運星にあるんぢやな





くつて、我々の心にあるのぢや。  
 ブルータスとシーザー。其シー  
 ザーといふ名前に何が有る？ 何  
 故其名前が貴下の名前よりも響  
 き渡るか？ 書並べて見て何の  
 優劣もなく、口にして見ても呼聲  
 に上下は無い。衡器に懸けても  
 軽重は無く、呪文に使へば「ブル  
 ータス」も「シーザー」と同様に、精  
 霊を禱り出す魔力を有つに相違  
 ない。一體全體、シーザーめは、  
 そもく何を食べひをつて、あのや

うに偉くなつたか？ あゝ現代よ、貴様は面上に泥を塗られたのぢや。羅  
 馬よ、貴様は英邁果敢な血統を失つてしまつたか？ 大洪水このかた、英  
 雄は只一人しか無いといふやうな時代が此國にあつたか？ 羅馬の過去を  
 語るに當つて、此廣大な城壁が只或一人をのみ圍繞したなぞと曾て言ひ得  
 た者があるか？ 羅馬は大共和國ぢや、只一人だけを容る國としては、成  
 程大でもあらうかい。 おゝ！ 貴下も子も親共から聞いて知つてゐる、  
 昔のブルータスは、王を戴く位ならば、悪魔を羅馬に君臨させることを  
 も忍んだのぢや。  
 ブル  
 君が予を愛してゐることは、少しも疑はん、又君が予に何をさせようとし  
 てゐるかをも略察してゐる。それにつき、又現下の形勢について予の考へ  
 てゐる事は後日改めて話させよう。今日は、願ひですから、これだけに  
 しておいて下さい。君の言つた事を熟考もしようし、君の言はうとする事



も猶とつくり聞きませう、又さういふ大事を聞いたり答へたりするに都合の好い時をも求めませう。それまでのところ、此一言を含蓄しておいて下さい。ブルータスは、現代が我々に課さうとする斯様な酷い條件の下で羅馬の市民たるよりは、名も無い村男となつたほうが優だと思ひます。

カシヤ

子の弱い語がブルータスに衝突つて、それだけでも火花を發せしめたと思へば満足です。

ブルー

遊戯が了つたので、シーザーが歸つて來ます。

カシヤ

彼等がこゝを通る時分に、カスカの袖をお引きなさい、彼男、例の皮肉な流義で、今日の重立つた出來事を話ませう。

シーザー及び其陪從者等出で來る。

ブルー

さうませう。が、御覽なさい、カシヤス、シーザーは例の疳癩らしく額を赤くしてゐるし、他の者は何れも叱られたやうな顔をしてゐる。カルバア

ニヤの頬は蒼ざめ、シセローの目は猿鼠の目のやうに赤い、嘗て議事堂で元老等に反對演説をされた時分に、丁度あのやうな凄い目をした。

カシヤ

カスカに訊けば、仔細がわかりませう。

シーザ

アントニヤス!

アント

シーザー?

シーザ

予は肥つた者ばかりを左右に置きたい、滑こい面附の、夜も善く眠るやうな奴をなう。あそこにあるカシヤスなどは、瘦せて空腹さうな顔をして

ゐる、考へてばかりゐる。あゝいふ男が危険ぢや。

アント

御心配なさるな、シーザー、あれは危険な男ぢやありません。立派な羅馬人で、性質も傑れてをります。

シーザ

もう少し肥つてゐたらば! が、心配なぞはせんよ。併し若しシーザーが心配したり恐れたりすることがあれば、真先に彼瘦せたカシヤスを遠ざけ



るわい。大層書も讀めば、觀察にも長じ、行爲に因つて人の肚をも見透す。彼れは演戲などは好まん、アントニー、お前のやうに。音楽も好かん。

笑ふことも稀だ、たまに笑へば自ら嘲るやうに、かりにも笑つたおのが心をさげすむやうに笑ふ。あゝいふ手合は自分以上の者を見ると煩悶する、だから危険ぢや。が、これは何が恐るべきかをお前に話すまでぢや、予が恐れるのではない、予は常にシーザーぢやからなう。右の方へ来てくれ、此方の耳は聞えんから。え、お前は彼男を如何思ふ、正直に話してくれ。

センネット調の喇叭。シーザー及び其陪従者一同入る。カスカ後に残る。

カスカ 貴下は予の袖を引いたね、何か用がありますか？

ブルー あります。如何な事件がありましたね今日？ シーザーが不快げな貌をしてゐましたが。

カスカ おや、貴下はシーザーと一しよにゐたぢやないかね？

ブルー ゐたのなら、君に訊ねる必要はない。

カスカ 何ね、王冠をシーザーに獻げた者があつたのです。ところが其獻げた王冠を、大將手の背で以て如是鹽梅に排斥しました。すると公衆は大喝采。

ブルー あの二度目の騒ぎは何でした？

カスカ さあ、それも同斷。

カシヤ 三度喝采しましたせ。一番終のは何の爲でした？

カスカ さあ、それも同斷。

ブルー では二度王冠を獻げましたか？

カスカ いかにも、其通り、ところで彼れは三度とも排斥しました、後ほど手柔かにね。すると其排斥するたびに、正直者の先生たち喝采しました。

カシヤ 王冠をだれが獻げました？



カスカ はて、アントニーでさ。

ブルー カスカ君、その模様を話して下さい。

カスカ

それを話すのと縊殺されるのでは、孰ちが優かといふ位のもだ。馬鹿々々しい話さ、よくは見ても居ませなんだがね。マーク・アントニーが王冠を獻げるのを見ましたが、王冠とは名ばかり、例の月桂樹を縮ねた奴。ところで、今も申した通り、奴は直ちにそれを排斥しました、が、察する所、内々は欲しかつたらしい。するとアントニーは二度目それを彼れに獻げました、すると又排斥した、が、察する所、奴それが引摺みたくてならなんだらしい。するとアントニーが三たびそれを彼れに獻げた、彼れは三たびそれを排斥した。ところで彼れがそれを辭するたびに、愚民群は喝采する、ひしゃわれた手を叩く、汗臭い夜帽を抛上げる、シーザーが王冠を辭したといつて堪らん臭い息で嘔鳴り立てる、それが爲にシーザーは息を塞らせ、

噎せかへつて、遂に卒倒してしまひました。予は又笑ひたいのを能う笑

カシヤ ま、お待ちなさい。え？ シーザーが卒倒しましたか？

カスカ 市の真中で卒倒して、口から泡を吹いて、何にも言はなかつた。

ブルー ありさうなこと。癲癇は彼男の持病に有る。

カシヤ いや、シーザーには無いが、貴下や予やカスカ君には顛倒病といふ持病が

カスカ 貴下の意味は如何いふのか知らんが、シーザーは慥に卒倒しましたよ。寄

集つた檻樓共は、まるで劇場で俳優を扱ふやうに、シーザーの爲る事が奴

等の氣に入れば手を叩く、氣に入らねば罵り立てる、こりや全く偽の無い

話です。

ブルー 正氣に返つた時、シーザーは何といひました？

正氣に返つた時、シーザーは何といひました？



カスカ されば、卒倒する以前に、平民共が彼れが王冠を辭するのを喜ぶのを見て、彼れは自身で其下被の胸元を押開けて、公衆に向つて、さあ此喉を切れと言ひました。あゝ若し予が町の者であつて而も奴の言葉を該時實行せなんだなら、世間の惡黨と同じに見られて地獄へ落ちても遺憾なした。さて、それから卒倒しました。やがて我に返つていふには、若し予が何か間違つた事を爲たり言つたりしたならば、貴下がたには何卒それを予の病ひだと思つてくれと斯う言つた。予の傍にゐた三四人の女郎は「あれま！ なんたる善いお方や」とわめいて、心底奴を怒いてをつたが、彼奴らは沙汰の限りです。よしんばシーザーの爲に實母を突殺されてゐたつて同じやうなことを言ひかねない奴等だ。

ブルー では其後で歸つたのですな、あんな醜いだ貌をして？

カスカ さやう。

カシヤ シセローは何か言ひましたか？

カスカ さやう、希臘語でね。

カシヤ どんなことを？

カスカ いや、それがお話し申せたら、又とはお目にかゝりにくい。併し解つた手合は、互ひに、やゝ、笑つて首を振つてゐました、が、予に取つちや諺通りの希臘語でね。それからまだお話がある。マラ、スとフレーギヤスはシーザーの像から飾物を引剥いたからといつて謹慎を申し附けられました。さやうなら。まだく馬鹿な事もあつたんだが、忘れてしまつた。

カシヤ 今夜御一しよに晩食をいたしたいが如何です？

カスカ いや、既に前約があります。

カシヤ では明日の晝食はいかがです？

カスカ よろしい、予が生きてをり、貴下の心も變らず、又其晝食が食ふに足ればね。



カシヤ けつこう。お待申すよ。

カスカ どうぞ。さやうなら、兩君。

カスカ 入る。

ブルー 樸訥な男になつたものだ。學校に通ふ頃には機敏な方であつたが。

カシヤ いや、今でも機敏です。何か大膽な又は大きな計畫を行ふ段となると、表面を懶惰げに粧つてはゐるが。あの無作法な口吻が持前の皮肉に味を附けて、奴の語を一段面白く思はせ、喜んで咀嚼させ賞翫させます。

ブルー なるほど。今日はこれでお別れしよう。若し明日話をして下さるやうなら、お宅へ伺はう。或は宅へ来て下さるなら、待つてゐませう。

カシヤ 伺ひませう。それまでに、世の中の事を考へておいて下さい。……

ブルー 入る。

さて、ブルータス、お前は高潔な人ぢや。併しお前の公明正大な性質も持

前でない方へ捻ぢ向けられないこともない、それゆゑ君子は常に君子を友とするが當然ぢや。何故なら、決して誘惑されんやうな堅固な人間が何處にあらう？ シーザーは予には辛く當るが、ブルータスをば愛してゐる、若し予がブルータスで、ブルータスが予であつたら、彼れは予の氣を誘ふことは出来まい。……今夜、種々の書風で書面をしたゝめ、種々の市民からよこいたやうにつくろつて、彼れが家の窓へ抛入させておかう、ブルータスの名に對して非常な信用を抱いてゐるやうにしたゝめた書面を。其書面にはシーザーが野心を抱いてゐる事を暗示しておかう。それでも尙シシーザーの位置が安全なやうでありや、人力の及ばん所ぢや、一段の不幸を忍ぶより外は無。

カシヤ 入る。



第三場——同處。街頭。

雷鳴電光。カスカ劍を抜き持ちて一方より、又一方よりはシセロー出る。

シセロ

今晚は、カスカ。シーザーを送り届けましたかい？ 何故息を切つてゐるのだ？ 何故さう目を据ゑてゐなさるのだ？

カスカ

貴下は駭かんのか、釣合が狂つて地球がぐらくと動いてゐるのに？ おシセロー！ 予は度々大あらしに逢つて、瘤々だらけの櫂の幹を怒る風の裂くのをも見たし、大海が大それた望を起いて、逆巻き、怒り、泡立つて、落ちかゝらうとする黒雲へ撲著らうとするのをも見た、けれども決して今

夜までは、決して今日までは、火の降るあらしには出逢はなんだ。天上界に内亂でも起つたか、或は人間が神に對して餘り無作法なので、神が怒つて破滅を降すのか？

シセロ

はてね、其外にまた何か不思議なものを御覽じたかね？

カスカ

貴下も見知つてをられる彼役所の奴隷が、左の手をさしあげてゐました、それがまるで炬火二十本も合せたやうに炎々と燃えてゐました、しかも手は焼けもせず、爛れもせず。そればかりでなく、議事堂の前まで來ると、予は獅子に出逢ひました、それ以來劍を鞘に納めません、奴子をじつと睨んで、凄い貌をして行過ぎました、何の害をも加へず。それからまた、凡そ百人ほど女どもが一團となり、眞蒼な貌して、人心地もなく怖れ戦き、今がた全身火となつた人達が街を驅廻つてゐるのを儲かに見たと斷言しました。それから昨日はまた、眞晝間に梟が市へ降りてフー／＼と啼きま



した。斯う種々な凶い兆が一致して起るからには、これは云々の學理に因る、當然の現象だ。なぞと言つちやをられません。何か不祥な事が此國に起るのを知らせるのに相違ない。

シセロ 成程、不思議な時節柄です。併し人は兎角、めい／＼思ひ／＼に、事物の本來には無關係な解釋を下すものです。シーザーは明日議事堂へ來ますかい？

カスカ 來ます。現にアントニーに明日出席の事を貴下に傳へると吩咐けてゐました。

シセロ では、お休みなさい、カスカ。かういふ荒れる晩には出歩けませんわい。  
カスカ 御機嫌よう。

シセロ 入る。  
カシヤ 出て來る。

カシヤ 誰れぢや？

カスカ 羅馬人。

カシヤ カスカの聲ぢやね？



カスカ 聰い耳だ。カシヤ

ス、何といふ晩だらう？

カシヤ 正しい人間には愉

快な晩ぢや。

カスカ こんな天變があら

うとは、誰も思ひが

けないことだ。

カシヤ いや、人間界の不埒だらけなことを知つてゐる者は、思ひがけてゐべきぢ



や。予なぞは、此危険な雷雨の中を先刻から彼方此方歩いてゐた、此通り肌衣を押開けて、雷石に胸を曝いて。十字に閃く電光が天の胸元を開くやうに見える途端に、丁度其真正面へ此身體を持出してゐた。

カスカ

だが、何故貴下は、そんな神にからかふやうな事をするんだ？ 強大な神々が怖ろしい前兆を下いて我々を駭かす時分には、恐れ戦くのが當然ぢやあないか？

カシヤ

カスカ、君は鈍な男ぢや、君は羅馬人の缺くべからざる生の火花を有つてゐないのか、でなければ、それを用ひないのぢや。君は蒼い貌をして目を見張つて、天の此奇怪な憤激を見て怖れたり驚いたりしてゐる。が、若し君が其眞の原因を考へたなら——何故あんな煽が燃え立ち、何故あんな幽霊が現れ、何故禽獸が其質を變じ、何故老人が愚に返つて子供等が却つて未來を語るか、何故世上のあらゆる者が其定めにも本来にも持前にも背い

て奇怪至極な性質を現すに至つたかを考へたなら、天は畢竟かういふ奇怪な現象を藉りて、人間界の状態が不自然を極めてゐるのを諷示し警告するのぢやといふことが解る筈ぢや。カスカ、予は現に或一人を名指すことが出来る、其奴は此怖しい夜同様に、雷ともなり、電ともなり、墓をも發き、議事堂前の獅子のやうにも吼え猛る。個人としては、お前や予に比して決して偉くはない、が次第に忘々しい勢力を得て、今では此不思議なあらしのやうに怖ろしいものになつてゐる。

カスカ

それはシーザーの事だらう？ え、カシヤス？

カシヤ

誰であらうと關はん。羅馬人が其先祖に恥ぢん筋骨を具へてゐる以上は、が、情ないこつちや！ 父親の精神は死んでしまつた、我々は母親の魂魄に支配されてゐるのぢや。意氣地なく鞭を掛けられてゐるのを見れば、吾々は皆な女ぢや。



カスカ

成程、さういへば、明日は元老がシーザーを王にするといふ噂だ。さうなりや奴は、伊太利だけを除いて、海陸各地の王となるんだ。

カシヤ

さうなれば、何處に此短剣を帯ぶべきかを予は知つてゐる。カシヤスが此カシヤスを奴隷の境涯から救つてやる。あゝ神々よ、貴下等は斯うして弱い人間を最も強い者になさる、あゝ神々よ、貴下等は斯うして世上の暴虐者の鼻をあかせなさるのだ。どんな石の塔獄も、どんな黄銅の城壁も、どんな深い穴牢も、どんな堅固な鐵の鎖も、斯うと決心した精神を制抑する力は無い、人が一たび此生の羈絆に倦み果てたとなれば、生を絶つ力は何時でも吾に在る。予が之を知つてゐる以上は、世間の者も心得ておけ、今予が忍んでゐる此專横は、いざとなれば、何時でも予は拂ひ除けるぞ。

雷鳴 尚つゞく。

カスカ

予とてもさうだ。さういへばどの奴隷も、自分で其羈絆を脱する力だけは

握つてゐる。

カシヤ

では何故シーザーが專横を働くに至つたか？ 惘然に！ あの男狼にな

らうとは思ふまい、羅馬人を羊同様ぢやと見くびらなければ。獅子にはならなんだであらう、羅馬人が牝鹿でなければ。急に目ざましい火を燃やし立てようとする者は、先づ藁屑で火種を作る。羅馬は何たる斷片ぢや、何

たる破片ぢや、何たる檻樓ぢや、シーザーのやうな卑劣人を照し輝す無益な用に使はれるとは！ あゝ併し、憤慨の餘り、つい我知らず口走つたが、或は予の前にある男は、甘んじて奴隷になつてゐるのかも知れない、果してさうなら、此責任をば負はんけりやならん、が、予は夙に覺悟してゐるか

カスカ

ら、危険には無頓着ぢや。

相手はカスカだ、讒訴嘲弄を事とするやうな男ぢやあない。さ、手をお取んなさい。世の弊害を除くために、同志をお募りなさい。踏込んだから



には、子は決して人後には落ちません。

カシヤ さあ、約束しましたぞ。お話するが、子は既に、最も高潔な羅馬人若干名を説落いて、公明正大な併し頗る危険な重大な計畫に一味させておきました。只今現にボンペイ座の表廊下で子を待つてゐる筈です、といふのは、かやうな晩には全く人通りもなし、二つには空模様が行はんとする事に似て、物すごく、烈しく、おそろしく見えるのも似つこらしいので。

カスカ 静かになさい、誰だか急ぎ足で來ます。

カシヤ シンナぢや。歩きつきで解る。彼れも同志です。………

シンナ 出で來る。

シンナ、急いで何處へ行くんぢや？

シンナ 貴下を捜しに。それは誰れです？ メテラス・シンバア？

カシヤ いや、カスカぢや。企に同意した一人ぢや。子を待つてやしないかね？

シンナ (カスカに)それは悦ばしい。何て怖い晩でせう？ 不思議なものを見たといふ者が二三人あります。

カシヤ 子を待つてやしないかね？ え？

シンナ あゝ、待つてます。……お、カシヤス！ 若し貴下がああブルータス君を身方に引入れることが出來りやあ——

カシヤ まあ、。シンナ君、貴下此書面を持つていつて、町奉行の椅子へ載せておいて下さい、ブルータスがつい見附けさうな處へ。それから此れはブルータスの宅の窓から抛込んで下さい。此れは老ブルータスの像へ蠟で貼附けて下さい。それが皆な濟んだら、ボンペイ座の表廊下へおいでなさい、子共は彼處にゐるから。デシヤスブルータスやツレボニヤスは彼處にゐますか？

シンナ メテラス・シンバアの他は皆ゐます。シンバアは貴下を捜しにお宅へ往き



カシヤ

ました。では予は急いで往つて、お吩咐の通りに處分しませう。  
濟んだらポンペイ座へおいでなさい。……

シンナ入る。

カスカ

さあ、カスカ、二人で夜の明んうちにブルータスを訪ねよう。あの男三分は既に此方のものおやから、もう一談判で全部此方のものになるに相違ない。おゝ！ あの男は衆人に尊信せられてゐる。我々がすれば罪惡と見られることも、あの男が賛成すれば、丁度巧妙な錬金術が鉛を金に化けさせるやうに、それを美德とも思はせれば功績とも思はせる。

カシヤ

あの男の人徳、あの男の我々に必要な所以は、全く君のいはれる通りぢや。さ、心掛けませう、もう真夜中過ぢや。夜明前にブルータスを訪ねて事を確かにしておかう。

二人ともに入る。

第二幕

第一場——ローマ。ブルータスの庭園。

ブルータス 出る。

ブルー

こりや、ルシヤス！ おい！……星の位置だけでは推測が附かんわい、夜が明けたか、どうだか。……ルシヤス、こりや！……斯う善く眠込んでしまふ癖は羨ましいわい。……おい〜ルシヤス！ こりや起きろ！ こりやルシヤス！

ルシヤス 出る。



ルシヤ お呼びになりましたか？

ブルー ルシヤス、書齋へ蠟燭を持つてゆけ。火を点けたら、来て知らせろ。

ルシヤ かしこまりました。

ルシヤス 入る。

ブルー 殺さなければならん。自分一個としては何の怨もない、彼れを排けるのは一へに公共の爲だ。……彼れが王冠を戴く身となると其性質が如何變るか、それが疑問だ。麗かな日には足元の用心をせねばならん、毒蛇の這ひ出るのはさういふ日だ。……彼れを王にする！ それだ！ 針を與へるやうなものだ、それに依つてほしいまゝに危害を醸すかも知れん。權力の弊害は、權に驕つて慈悲を忘れる時に始まる。……併し、シーザーの爲に辨ずれば、彼れが情の爲に其理性を昏まされた場合は未だ曾て見たことがない。が、謙遜は兎角嫩い野心が青雲に志すに當つて先づ目を附ける楷梯だ、登つて

しまへば其楷梯に脊中を向けて、雪中で睥睨し、はじめ用ひた低い足が、りを賤むのが定例だ。シーザーもさうかも知れん。……で、さうさせないために、先んじて制する。……ところが、現在の彼れでは名分が立たんから、斯ういふ風に観る、今の彼れが次第に増長して斯様々々の甚しい事を行ふことになるすると、すなはち彼れは毒蛇の卵である、それが孵つて蛇となれば大害を醸すに相違ない、それゆゑ卵の間に碎く。

ルシヤス 出る。

ルシヤ お書齋へ蠟燭を点けました。燧石を捜しますとて、窓で、如是な風に封をした書面を見附けました。先刻床へ入ります時分にはありませんでした。

一通の書状をブルータスに渡す。

ブルー また床へ入れ、まだ夜は明けん。……こりや、明日は三月の祭日か？

ルシヤ 存じません。



ブルー 曆を査べて来い。

ルシヤ かしこまりました。

ルシヤス 入る。

ブルー 流星が空を走るから、其光で讀めさうなものだ。……

書状の封を切る。

ブルー タスヨ、汝ハ眠レルナリ。覺醒シテ汝自ラヲ見ヨ。羅馬ハ徒ラニ、云々。口ヲ開ケ、手ヲ下セ、弊ヲ除ケ!

「ブルー タスよ、汝は眠れるなり。覺醒せよ!」……かういふ文意の書面は今までも度々落してあるのを捨つた。「羅馬は徒らに、云々。……こりや斯う補はんけりやならん。羅馬は徒らに一個の人間を畏怖れて、其好隸たる境涯に甘んせざるべからざるか?……何、羅馬か?……先祖のブルー タスは、羅馬の街から、その頃王と呼ばれてゐたタークイン一家の者を追出して

しまつた。……口を開け、手を下せ、弊を除け!」……予に口を開け、手を下せと頼むのかり……お、羅馬よ! 承知したぞよ。もし果して弊を除くことが出来れば、汝の願望は悉くブルー タスの手で遂げられるのだ!

ルシヤス 出る。

ルシヤ もし、三月はもう十五日目になつてをります。

ブルー よろしい。(奥にて叩く音) 木戸口へ行け。誰やら叩く。……

ルシヤス 入る。

カシヤスに説かれてシーザーを殺さうと思つて以來一睡もしない。……怖ろしい事を思ひ立つて彌々それを實行するに至るまでの間は、凄い幼影か怖ろしい夢か見てゐるやうな心持だ。精神と肉體とが協議をはじめ、人の心の中が小王国の亂れたやうに攪亂する。

ルシヤス 又出る。



ルシヤ もし、お目にかゝりたいとおつしやりますのは義弟のカシヤス様でござります。

ブルー 獨か？

ルシヤ いゝえ、他の方もいらつしやつてでござります。

ブルー お前が知つてゐる人か？

ルシヤ いゝえ。耳元まで帽子を引冠つて、お貌を外套で隠していらつしやいますから、どんな方だかお貌を見ることが出来ません。

ブルー こちらへ通せ。……

ルシヤス 入る。

きつと徒黨の者だ。……お、隠謀よ！ 汝は夜ですら人に面を見られるのを恥ぢるか、罪惡が自在に横行する夜ですら？ お、では逆も白晝は其奇怪な顔色を隠すに足るやうな暗い洞はあるまいぞ！ 隠謀よ、隠れ所を搜

すのを止めて、笑の裡や愛嬌の中に身を隠せ、持前の顔附で出歩いた時分には、黒闇地獄の闇を以ても、人目に掛らんやうに、汝を隠し了せることは出来んから。

徒黨の者入来る、カシヤス、カスカ、デシヤス、シンナ、メテラス・シンバア及び

ツレポニヤス

カシヤ お寢み中甚だ失禮です。お早うでござります。御迷惑でせうか？

ブルー もう起きてゐました、終夜眠ませなんだので。御一しよの諸君は予のお知合ですか？

カシヤ はい、何れもお知合です。何れも貴下を尊敬し貴下が羅馬の輿論通りの態度を取られんことを望んでゐます。……これはツレポニヤスです。

ブルー ようこそ。

カシヤ これはデシヤス・ブルー・タス。



ブルー ようこそ。

カシヤ これはカスカ。……これはシンナ……そしてこれはメテラス・シンバア。

ブルー 何方もようこそ。……如何いふ御心配事があつて諸君にはお寝みなさん  
のです？

カシヤ 一寸申したいことがある。

カシヤとブルーと離れて耳語する。

デシヤ こちらが東だ。日は此邊から出ませうな？

カスカ いゝや。

シンナ おゝ！ 失敬だが、出ますよ。あの雲に灰色の縞が出来てゐるのは日の出  
る先驅です。

カスカ 兩君とも間違つてますよ。それ、予の此劍の方角から太陽は昇ります、す  
なはちずつと南へ寄つてゐます、季節がまだ春先ですから。もう二三ヶ月

も經つと、一段高く北の方から昇りはじめます。眞東は議事堂と同じで、

丁度此邊です。

諸君、一人々々にお手を戴かう。

ブルー

カシヤ

ブルー

いや、誓ふには及びません。若し各人の悲憤の顔色、各人の精神の苦悶、此  
目前の弊害——これらを以てしても尙志を堅めるは足らんやうならば、  
速かに解散して各人床に就いて惰眠を貪つたはうがよろしい。角鷹のや  
うな暴慢な専制者に生殺與奪の全權を任せたはうがよろしい。併し今言  
つた三ヶ條が果して臆病者の心をも燃立たせ、鉛のやうな女の精神をも鋼  
鐵とならしむる力があるなら、我々が國弊を除かんとするに當つて、此志  
以外の利戟は要らん筈です。約束したぞ、變心しないぞと明言する以上に、  
二枚舌を有たん羅馬人が如何いふ羈絆を要しますか？ 正義の士が正義の



士に對して、かやうくにしよう、若し間違つたら死あるのみと明言する以上、如何いふ誓が要りますか？ 誓ふのは僧侶や臆病者や腹黒な輩や侮辱を甘受する半死の老骨や卑屈の徒輩に限ることです。悪事を企て、互ひに疑ひ危めばこそ誓ふのです。併しながら此公明正大な企を、此制抑すべからざる憂國の精神を穢すやうなことをなさるな、之を實行するに誓が要るなぞと思つて。各羅馬人の體内の高潔なるべき血が一滴毎に穢はしい蠻夷の血を混へてゐるといはねばなりません、萬一羅馬人たる者が其口から發した約束を分厘たりとも破るやうなら。

カシヤ 併しシセローは如何しませう？ そびいて見ませうか？ 身方にすれば大きな後援ですが。

カスカ 是非お加へなさい。

シンナ 無論です。

メテラ おゝ！ 是非。あの銀色の頭髮はきつと我黨の爲に好評を買ひます、輿論をして我々の爲た事に賛成せしめます。我々の手は彼れの分別を経て働いたのだと言はれる、すれば血氣とか粗暴とかいふ嫌疑は彼嚴格な顔色の底に隠れてしまひます。

ブルー おゝ！ 彼れはお止しなさい、彼男には打明けなはいが可い。彼れは何でも他人の始めた事を、其後から奉じて行く男ではありません。

カシヤ では除きませう。

カスカ 成程、彼男は不可ますまい。

デシヤ 時に吾々が手を下すべきはシーザーばかりですか？

カシヤ デシヤス、好い處へお心附でした、予はシーザーにあれほど愛せられてゐるマーク・アントニーを生しくおくのは宜しくないと思ふ。彼奴恐らく油断のなんことを企てませう。それに彼れが實力は、彌々十分に利用する



段となると、我々に大害を及ぼしませうから、先んじて制するためにシーザーと共に行きませう。

ブルー

いや、さうしては我々の所為が餘り残酷に過ぎませう。首を切つた上に手足までも切離すとなると、憤怒にはじまつて憎悪に終るのである、アントニーはたかゞシーザーの手足ですから。カシヤス、我々は神に犠牲を供へる神官になりたい、牛豚を屠る屠者にはなりたくない。我々一同が敵と目指すのはシーザーの精神です。精神には血は無い。おゝ！ 出来るならシーザーの精神だけを誅戮したい、彼れが肉體には手を加へんで。しかし、あゝ！ シーザーは之が爲に是非とも血を流さねばならん。諸君よ、大膽に彼れを殺すとも、残忍には殺しますまいぞよ。神への供物を調理する心で刀を揮ひませう、獵犬に與へる古肉のやうには扱ひますまいぞよ。我々は、老獺な主人が僕に命じて一旦の怒を實行させながら、後に之を叱

カシヤ

るやうに、我手の爲た事を罵りたいのです。さうすれば、私怨私憤でなく、國の爲に己むを得ず弊を除くのであると公衆の目にも分るから、随つて虐殺者の悪名をばまぬがれます。マーク・アントニーは打棄つておゝきなさい。彼れはシーザーの片腕以上の働きをなし得る男ではありません、シーザーの首がなくなれば。併し予は心配です、何故なれば、彼れはシーザーに對して極めて深い恩誼を――

ブルー

あゝ！ カシヤス君、彼れの事は心配なさるな。よしシーザーに對して恩誼を感じてゐるにもせよ、彼れが爲し得る事は個人的で、たかゞ哀愁に沈んでシーザーの爲に悶死する位のものです。それだけの事でもすれば大した事だ。何故なれば、彼れは遊戯好で放蕩者で、交際の楽しみに我を忘れる男ですから。



ツレボ 彼れは恐れるに及びません、殺さんことにしませう。彼奴は平氣で生きてゐて此度の事を笑ひ話にするやうな奴です。

時計の音聞える。

ブルー 静かに！ 時計をお算へなさい。

カシヤ 三つ打ちました。

ツレボ 出掛ける時刻です。

カシヤ 併しシーザーが今日来るか来ないか、尙疑問です。何故なれば、近來大分

迷信家になつてゐますから、神經作用や夢や前兆を信じないといふ彼の前説とは大ちがひに。或は今夜のやうな斯ういふ怖ろしい珍事や奇怪不思議な事があつて見ると、占者其の言葉を信じて、議事堂へ出るのを見合はすかも知れません。

デシヤ 其御心配には及ばん。若しさう決心してゐるやうであつたら、自分が説落

いて伴れて來ます。何故なれば、彼れ平生、犀は立樹を以て欺くべく、熊は鏡を以て欺くべく、象は陷井を以て、獅子は罨を以て、人は追従を以て欺くべしといふ格言を聽くことを好んでゐます、が併し閣下は追従はお嫌ひで、と自分が言ふと、彼奴成程と大得意です、おそろしく追従されてゐるものに氣が附かんで。……自分が試つて見ませう。氣に入るやうに持込んで議事堂へ引張つて來ませう。

カシヤ いや、我々共も後から参りませう。彼れを伴れ出すために。

ブルー 八時にですか？ おそろくも。

シンナ おそろくも其時刻に。ではお間違へないやうに。

メテラ ケイヤス・リゲーリヤスは、嘗てボンペイの事を善く言つたのでシーザーに罵られ、それ以來シーザーに遺恨を抱いてゐます。誰も彼男の事を言はれんのは不思議です。



ブルー メテラス君、君どうか彼れの宅へ寄つて下さい。彼男は深く予を愛してゐる、それには理由のあることです。こゝへ來させてさへ下されば予が巧く説きませう。

カシヤ もう朝です。ブルータス、お別れませう。諸君、解散なさい。併し何方も先刻いはれたことを忘れないで、眞の羅馬人たる證據をお見せ下さい。諸君、生々とした快活な顔色をしておいでなさい、顔に計畫を見せびらかさないやうに。我國の俳優共のやうに、飽迄も活潑に陽氣に、沈着に立派に行動なさい。さやうなら、何方も御機嫌よう。……

ブルータスだけ残りて皆々入る。

こりや！ ルシヤス！ 眠込んでしまつたな？ かまはん。蜜のやうな重たい眠の露を思ふ存分に賞翫するがよい。汝は忙しい苦勞や心配が脳髓の中へ晝いて見せる種々な怖ろしい幻像を見たことがない。だから

其様に善く眠られる。

ボオシヤ出る。

ボオシ ブルータスどの！

ブルー ボオシヤ、お前さん、どうしたのだ？ 今頃何故起きたのです？ 朝の此寒

い風に弱い身體を當るのばよくありません。

ボオシ 貴下にだつてよくありません。ブルータス、竊と床をお脱けなされたは酷うござります。昨日の夕飯にも、不意に起つて腕組をして、考へ込んで、溜息をしながら彼方此方とお歩きなすつた、で、わたくしが如何なさいましたと申したら、こはい貌をしてお睨みなすつた。尙押してお訊ねしましたら、頭を掻いて腹立たしさに足踏をなすつた。けれどもわたくしは尙押してお訊ねしました、けれども貴下は御返辭をなさらないで、腹立たしさに彼方へ行けといふ手眞似をなすつた。で、わたくしは退りました、酷



く激していらつしやるのをお慕らせ申してはと心配もしましたし、二つには、これは誰にも有りがちの、ほんの一時の御不機嫌であらうと思ひましたから。ところがそれが爲に貴下は物も食らなければ物もおつしやらんし、眠りもなさない。若しお氣質が變つたほどにお姿までも變つたならば、ブルータス、わたくしは貴下を見分け得ない程であります。貴下、何卒御心配の原因をわたくしに知らせて下さいまし。

ブルー

予は身體の具合がわるい。それつきりなのだ。

ボオシ

ブルータスは愚かな方ではありませんから、若し身體の具合がわるければ、それを治す方法をお採りなさるであります。

ブルー

だから、さうしてゐますよ。ボオシヤどの、床へお歸りなさい。

ボオシ

ブルータスは病氣であるのに、だらしなく下衣の胸を披けて濕つばい朝の空氣をお吸ひなさるのが養生になりませうか？ まあ！ ブルータスは病

氣であるのに、衛生に好い筈の床の中を脱け出して、わざと夜の毒氣を冒したり穢れた空氣に觸れたりして、彌々悪い病を招かうとなさるでありますか？ いゝえ、ブルータス、貴下は何か胸の中に、切ない辛い病の種を持つておいでなさるに相違ない、それを妻たるの權利と徳を楯にしてわたくしは是非承はらねばなりません。それで、かう土下座をして祈ります、嘗ては賞めて下さいましたわたくしの美しさを呪文にして、愛すとおつしやつた其誓言を呪文にして、吾々二人を夫婦にし、同身一體とならしめた其盟約を呪文にして、わたくしは貴下に祈ります、打明けて下さいまし。わたくしは貴下の半身でございます、貴下みづからでございます、何故そんなに憐れいでおいでなさるのです、暗の夜にすら顔を隠す六七人の人達が先刻見えてゐましたが、あれは如何いふ人達でございませうか、打明けて下さいまし。



ブルー ボオシヤどの、土下座なんぞなさるな。

ボオシ

かうする必要はありません、貴下がやさしうさへして下されば。婚禮の規約の中に、もし、ブルータスどの、妻は夫の身に關する秘密を聞くことは出來ないといふ箇條がござ

いましたか？ 夫婦

は同身一體とは言へ、

限りがあつて、言は

只三度の食事を共にし

たり、お寢室の伽をし

たり、時折お話をする位に過ぎんのでございませうか？ わたくしは貴下の

愛情のほんの外郭に住んでゐるのでございませうか？ 若しさうなればボオ

シヤはブルータスの妻ではなくて、娼妓同様でございませう。



ブルー

あなたは予の眞實の立派な妻です、予の此切なる心へ往來する眞赤な滴り

ボオシ

それが眞實でございませうなら、是非秘密を打明けて下さいまし。成程わたくしは女でございませう、けれどもブルータスどのが娶つて妻となされた女

です。成程わたくしは女でございませう、けれどもケーターの實女です、世

に名を知られた女でございませう。貴下は、わたくしをばさういふ父や夫を

有つてゐても、只の女々しい女に過ぎないと思召しますか？ 秘密をお話

しなされませ、決して口外はいたしません。決心すれば、如何な苦痛をも

忍耐し得る證據は、手づから此股に傷を負はせて、いつぞやお見せ申しま

した。それをすら忍び得たわたくしが夫の秘密を忍び得ますまいか？

ブルー

お、神々よ！ 此立派な妻に恥ぢざる身とならしめたまへ。……

奥にて戸を叩く音。



や！ だれか叩く。ポオシヤ、暫く奥へいつてゐて下さい。今に心中の秘密を話させよう。……一切の事件を打明けます、わしの心配顔に現れた一切の事を。……早くあちらへ。……

ポオシヤ 入る。

ルシヤス、誰れだ叩くのは？

ルシヤス、リゲーリヤスを案内して出る。

ルシヤ 御病氣の方がお目にかゝりたいとおつしやいます。

ブルー メテラスが噂をしたケイヤス・リゲーリヤスだ。こりや傍へ寄れ。……ケ

イヤス・リゲーリヤス！ 如何です？

リゲー 御免下さい、病人の口から御挨拶を申します。

ブルー おゝ！ ケイヤス君、折もあらうに悪い時に病魔に襲はれなすつた！ 貴

下が病氣でなかつたらばと思ふに！

リゲー 予は病人でない、若しブルータスが大丈夫に相當した名譽の仕事を持つてござれば。

ブルー リゲーリヤス、予は丁度さういふ仕事を持つてゐます、貴下の健康がそれを聴くに堪へるならば。

リゲー 羅馬人の拜するあらゆる神々、きこしめされい、自分はもう病人ではござらん。あゝ羅馬の精靈どの！ 名譽の血統を傳へ受けられた英傑どの！ 貴殿は、修驗者のやうに、自分の病魔を祈り伏せて、死にかゝつてゐた自分の精神を祈り起いてくれた。さあ、駆け向へとあれば、どんな困難とも闘ひます、屹度克つて見せます。仕事は何です？

ブルー 病氣で仆れてゐる者を強健にしようといふ仕事です。

リゲー が、今強健である或男を斃さねばなりませんまいがな？

ブルー それも必要です。くはしい事は、ケイヤス、目指す其者の宅へ參る途中で



お話しませう。

リゲー

お仕掛なさい、勇氣が俄に奮ひ起りました、何をするのか知らんが、フルー  
タスが先導とあれば澤山です。

フルー

では御案内ませう。

二人とも入る。

第二場——同處。シーザーの館。

雷鳴電光。シーザー夜間服を着して出る。

シーザ

今宵は天地ともに穩かでなかつた。三度までもカルバアニヤが夢を見て

大きな聲で「助けてくれ、シーザーが殺さるゝ！」と叫んだ。……だれかゐ  
るか？

一 従者出る。

従者

御前！

シーザ 神官に吩咐けて犠牲をさせて、それが神慮に合つたか如何か、結果を聞い  
て来い。

従者

かしこまりました。

従者入る。

カルバアニヤ出る。

カルバ

如何なさいました、シーザー？ お出掛なさらうといふのですか？ 今日  
はお出掛なされてはなりません。

シーザ

いゝや、出掛けます。シーザーを嚇さうとした者もあつたが、曾て正面に





カルバ

向ひ得た者はない、シーザーの面を見れば彼等は忽ち消えてしまふ。

シーザー、わたくしは従来は厭勝や前兆を信じませなんだが、今日は怖う  
 思ひます。わたくしどもが見たこと聞いたことの外に、それはく、恐ろし  
 い物を夜廻りの男が見ましたさうにございます。牝獅子が街中で仔を産  
 みましたげな。墓穴がくわつと開いて死骸が吐き出されましたげな。狂  
 暴な猛烈な武人が雲の中で戦ひましたげな、列を作り隊伍を整へ、正式の  
 軍の通りに。其血がだらくと議事堂の上へ灑ぎ降つて、空中で打合ひ轟  
 めく物音がして、馬が嘶くやら、手負がうめくやら。剩へ幽霊がをめき叫  
 んで街の中を驅廻りましたげな。こりや全く只事ではありません、わたく  
 しは怖ろしう思ひます。

シーザ

強大な神々が斯うと思ひ立つてなさることなら、避けることは出来ん。や  
 つぱりシーザーは外出けます。何故なれば、これは凶い兆かも知れんが、



シーザー一人に對しては、はななく世界一般に對しての凶兆ぢや。

カルバ 乞食が死ねばとて彗星は現れませんが、王侯の最期には種々な天變が起つて、それを知らせます。

シーザ 臆病者は眞の死に出逢ふまでに幾たびも死ぬ。勇者は只た一度の外死の味を知らん。世の中のあらゆる不思議の中で、予の最も奇怪に思ふことは、人が死を恐れるといふことぢや。死がまぬがれがたいものである以上は、來る時には來る。……

從者 從者出る。

從者 神官は何と言つたか？

今日の御外出は御無用と申します。御犧牲の臍を引出して見ました

所、その獸に心の臍がなかつたと申します。

シーザ 神が臆病者を耻しめようとなさるのぢや。予が若し今日恐れて家に留ま

るやうであると、シーザーは心の臍の無い獸とならざるを得ない。いや、

シーザーは留らん。危険はシーザーの方が彼れよりも危険なことを知つ

てゐる。予と彼れは同日に生れた二頭の獅子ぢやが、予の方が兄で一層怖

ろしいのぢや。……シーザーは外出ける。

カルバ あゝ、悲しや！ 貴下は御自分を信じ過ぎてお智慧が昏りました。今日は

お外出なされては不可ません。貴下ではなくわたくしが心配して引留め

たとおつしやいませ。元老院へはマーク・アントニーを遣しまして、今日

は貴下が御不快ぢやと申させませう。膝を突いて願ひますから、お聽届下

さいませ。

シーザ お前の氣休めの爲に、マーク・アントニーに予は不快ぢやと傳へさせて、宅

に留ることにしよう。……

デシヤス・プルーダス 出る。



デシヤス・ブルータスが来た、彼れにさう言はせよう。

デシヤ シーザー、萬歳！ お早うござります、シーザー閣下。元老院へお迎ひの爲に参りました。

シーザ ちやうど好い時に来て下すつた、元老達へ予は今日往かんと傳へて下さい。往かれんと言つては虚偽ぢやが、往き得ないと言つては尙虚偽ぢや。今日は往くことを欲しない。さう言つて下さい。

カルバ シーザーは御不快ぢやと言つて下さい。

シーザ シーザーが何の爲に虚偽を傳へさせるか？ 遙かな外國までも悉く伐從へたシーザーが、何の爲に白髮の老人共に事實を傳へることを恐れるか？ デシヤス、シーザーは往くを欲しないと云つて下さい。

デシヤ シーザー閣下、何か理由をお聞かせ下さい、只さう申したばかりでは、わたくしが嘲弄されます。

シーザ

理由は予の意志にある。往くを欲しない。元老へ對してはそれで十分ぢや。が、予は君を愛してゐるから、君を満足させるために言ふが、此、妻のカルバアニヤが止るのぢや。其理由は、昨夜妻が夢に予の像が夥しい噴水口を有してゐる噴水盤のやうに盛んに鮮血をほとばしらすのを見た、すると其處へ多勢の強健げな羅馬人が莞爾笑ひつゝやつて来て、頻にそれへ手を浸すのを見た。で、それを妻は、何か災厄の來る知らせであり前兆であると考へて、今日は決して外出してくれなと膝まづいて予に乞うたのぢや。

デシヤ

其お夢の御解釋は全く間違つてゐます。それは結構な、めでたいお夢です。閣下の像が血を噴出してゐる處へ、多勢の羅馬人が莞爾笑ひつゝやつて来て、それへ手を浸すといふのは、大羅馬は畢竟閣下の血を啜つて復活するのでありますから、そこで歴々のともがらが群り來つて、閣下の血で紋章



を染めたり、印跡を捺したり、紀念品を作つたり、目標を製したりいたすと  
いふ意味なのであります。それが奥方のお夢に善う現れてをりまする。  
シーザ さう解釋したはうが當然のやうぢや。

デシヤ

只今申上げることをお聴になれば、それが彌々當然なことがお解りになり  
ませう。お聴下さいまし。元老會は本日大シーザ閣下へ王冠を献する  
ことに決してをります。然るに御出席なさらんと申遣された時分には、其  
決心は變るかも知れません。のみならず、恐らく之を好い嘲弄の料にして、  
元老會はシーザの奥方がもつと吉い夢を見られるまで解散したがよか  
らうなぞと申すものもございませう。シーザが引隠んでお出掛なさら  
んとなると、「あれ見よ！ シーザは怖つてゐる」なぞと耳語をしかねま  
すまい。御免下さい、シーザ。閣下の御行動に對し、深い愛敬を持って  
をります餘りに、つい有のまゝを申上げてしまひました。自分の分別力は

兎角情に負けまするので。

シーザ

カルバアニヤ、して見ると、お前さんの心配は、愚にもつかぬことであつた  
のぢや！ それを取上げたのを予は恥かしく思ふ。禮服を持つて來て下さ  
い、外出るから……

バブリヤス、ブルータス、リゲリヤス、メテラス、カスカ、ツレボニヤス、及びシン  
ナ出る。

あゝ、あそこへバブリヤスが予を迎へに來た。

バブリ

お早うござります、シーザ。

シーザ

ようこそ、バブリヤス。やあ！ ブルータス、君も斯んなに早く起きたの  
か？……お早う、カスカ。……ケイヤス・リゲリヤス、大層瘦ましたね、シ  
ーザは君に對して君を惱ました癒ほどの敵意は有つてゐませんぞ……  
何時だね？



ブルー シーザー、八時を打ちました。

シーザ わざく御出迎下すつた諸君の勞を謝します。……

アントニー出る。

御覽じろ！ 夜通し飲明すアントニーまで起きて來ました。……アント

ニー、機嫌よう。

アント シーザー閣下にも御機嫌よろしう。

シーザ 侶の者に準備させい。斯う諸君を待たせては濟まん。……や、シンナ。……

やあ、メテラス。……やあ、これはツレポニヤス！ 君には一時間たつぶり

話すことがある。必ず今日訪ねて下さい、忘れないでな。君に忘れさせな

いやうにしたいから、子の傍にゐて下さい。

ツレポ 承知しました。始終お傍にをりませう、貴下の最上の御親友がたは、爲に

目を敬てられますほどにな。

シーザ 諸君、奥へ來て、子と一しよに一杯飲んで下さい。それから直に連立つて

出掛ませう、無二の親友らしく。

ブルー (傍自) 親友らしい者必ずしも親友ではない、お、シーザー！ それを思ふと、

たまらないわい。

一同入る。

第三場——同處。議事堂附近の街頭。

アーテミドーラム 一葉の書附を讀みつゝ出る。

アーテ シーザーヨ、ブルータスニ用心セラレヨ。カシヤスニ油斷アルナ。カ





スカニ近ヅキタマフナ。シンナニ目  
 フ附ケラレヨ。ツレボニヤスヲ信任  
 セラル、ナ。メテラス・シンバアニ  
 ヨク注意アレ。デシヤス・ブルーク  
 スハ御身ヲ愛スル者ニアラズ。ケイ  
 ヤス・リゲリーヤスハ御身ヲ怨メル  
 者ナリ。此等ノ徒輩ハシーザーニ敵  
 意ヲ抱ク點ニ於テ悉ク一致セリ。御  
 身ニシテ不死不滅ナラザル以上ハ、  
 自家ノ身邊ニ留意セラレヨ。油斷ハ  
 大敵ナリ。強大ナル神々ヨ、シーザ  
 ーヲ護リタマヘ!

御身ヲ愛敬スル アーテミドラス

シーザーが通るまで此處に立つてゐて、訴訟人らしくもてないて之を渡さ  
 う。情ないことぢや、どんな徳があつても嫉妬の牙をまぬがれることは出  
 來ん。若しお前さんが之を讀めば、お、シーザー！ お前さんは助かるが、  
 若し讀まつしやらぬやうぢやと、運命は叛逆人の身方になつてしまふ。

アーテミドラス 入る。

第四場——同處。同じ街の他の一部。ブルータスの宅の前。

ホオシヤとルシヤスと出る。



ボオシ どうぞ、お前、走つて元老院まで往つて来てくれ。わたしに返辭なんかせんでも可いから、早く……何をしてゐるんぢや？

ルシヤ でも、奥さん、御用をうけたまはりませんでは。

ボオシ わたしや直に往つて直に戻つて来て貰ひたいのぢや、用を吩咐けてゐる間に……おゝ忍耐よ、克己よ！ わしの身邊を離れてくれるな、しつかり身方になつてゐてくれ、此心と舌との間に大きな山を築いてくれ！ 心ばかりは男でも力は女ぢや。あゝ女の身で秘密を守るのは辛いものぢや！ ……まだそこにゐるのかい？

ルシヤ 奥さん、何を致すんでございます？ 議事堂へ驅けて行くだけでございませうか？ それから戻つて来るだけでございませうか？

ボオシ あゝさうぢや、旦那の身に何も變りはないか見て来るのぢや、先刻氣分がわるさうにして出て行かれたから。それからシーザーが如何いふことを

なさるのか、どんな訴訟人がシーザーの傍へ寄るか、それをよく見て来るのぢや。や！……あの騒ぎは何ぢや？

ルシヤ 奥さん、何にも聞えやしません。

ボオシ よう耳をすまいてお聞きなさい。ぐわあといふ物音が聞えました、人が戦つてゐるやうな物音が。しかも風につれて議事堂の方から。

ルシヤ 奥さん、ほんたうに何にも聞えやしません。

豫言者の老人出る。

ボオシ ちよいと、お前さん。お前さんは何方にゐましたか？

豫言 自宅にをりました。

ボオシ 今は何時です？

豫言 九時頃でござります。

ボオシ シーザーはもう議事堂へ往かれましたか？



豫言

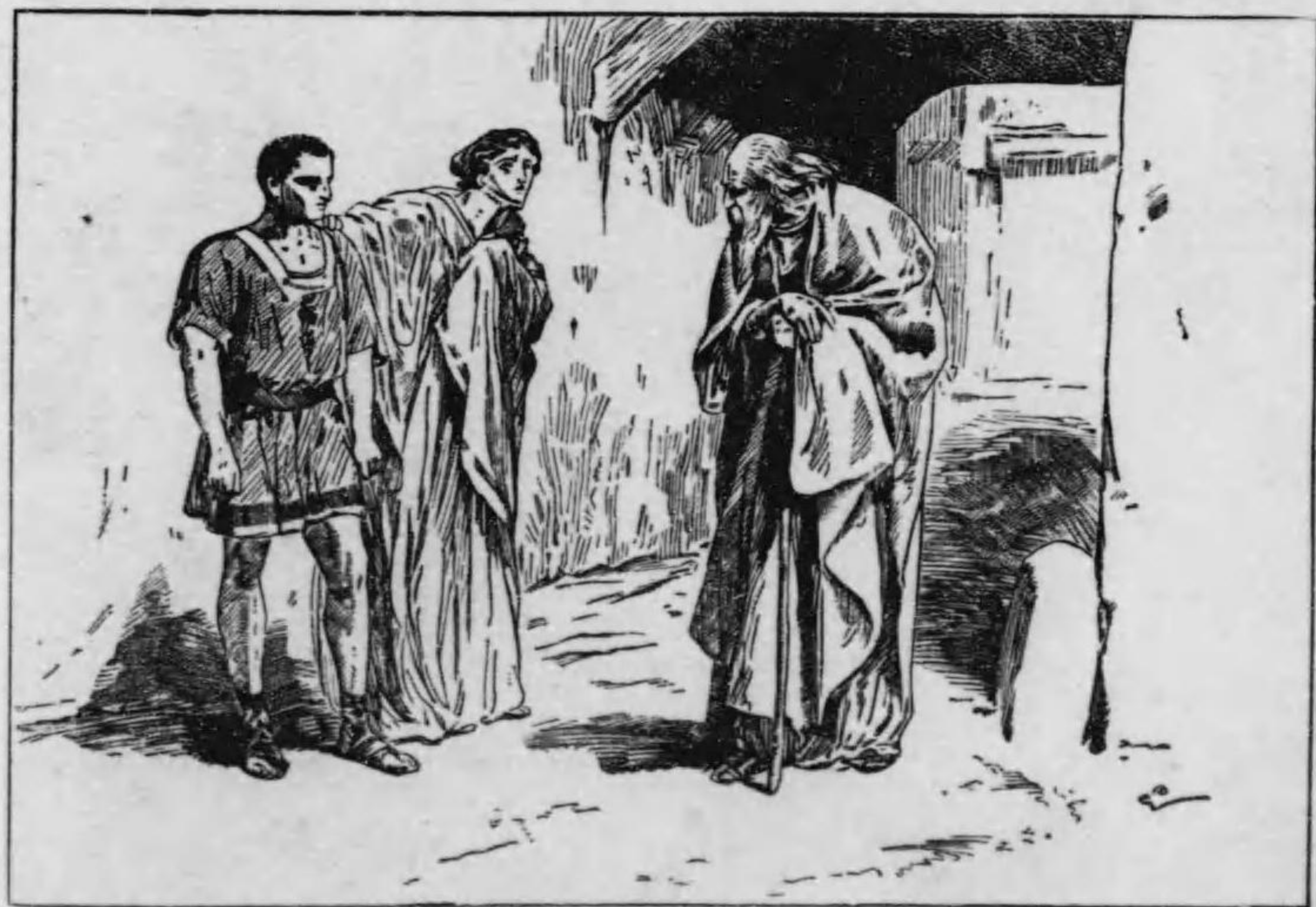
奥さん、まだでございます。わしはこれから場所を取りにまゐりますのぢや、シーザーどのが議事堂へ往かしやるのを見るために。

ボオシ

お前さんは何かシーザーどのお願ひがあるのぢやないか？

豫言

いかにも、御座ります、もしシーザーどのがわしの訴訟を聴かっしやるほどお身を大切になさりますれば。わしはシーザーにお身を大事になされませと願ふのでござります。



ボオシ

豫言

では何かシーザーどのに害を加へようといふ企でもありませんか？  
有ると知れてゐる事は一つもござりませんが、有りさうな恐れは幾らもござります。……さやうなら。……こゝは街が狭い。シーザーの後からは元老達だの、奉行達だの、並の訴訟人だのが群つて従いて來るから、弱い者は押殺されてしまふであらう。もつと人少々の處を搜いて、そこでシーザーに物をいひかけう。

豫言者入る。

ボオシ

わたしも入らねばならん。あゝ〜！ 何たる弱いものぢや女の心は！  
おゝブルータス！ 天の助けで首尾よう本望を遂げなさるやうに。……(傍白)おゝ！ 氣が遠くな  
シーザーどのが聴かつしやらないであらう。……(傍白)おゝ！ 氣が遠くな



る。……ルシヤス、驅けて往つて、旦那に言傳手をしておくれ、わたしは快活ちやと。それから直戻つて来て、旦那が何とお言ひなされたかを聞かしくれ。

左右に別れて入る。

\* \* \* \* \*

第三幕

第一場——ローマ。議事堂前。元老議員等一段高き處に著席してゐる。

一群の公衆。其中にアーテミドラスと豫言者。喇叭亂吹。  
シーザー、ブルータス、カシヤス、カスカ、デシヤス、メテラス、ツレポニヤス、シンナ、アントニー、レビダス、ポピリヤス、パブリヤス及び其他出る。

シーザ (豫言者に) 三月十五日は來たぞ。  
豫言 さやう。併しまだ過去りはしませんぞ。



アーテ シーザー、御機嫌よろしう……此書面をお読み下さい。

デシヤ ツレボニヤスが願ひをります、御閑暇に此請願書を御一讀下されますやう。

アーテ おゝシーザー！ 先づ此方のお読み下さい。これはシーザー御自身に

關した大切な御訴訟でござります。お読み下さい。

シーザ 予の身に關したことならば最後に處分すべきぢや。

アーテ いや、御猶豫なさりますな、直様お読み下さい。

シーザ やあ！ 此奴は狂人か？

バブリ こりや、退れ。

カシヤ やあ！ 其方は街頭で強ひて直訴をしようとするのか？ 議事堂へ參れ。

シーザー 元老院へ登り行く。他の者も續く。元老議員等起

立する。

ボビリ (カシヤスに) 御計畫の成功を禱ります。

カシヤ え、ボビリヤス、計畫とおつしやるは？

ボビリ 御機嫌よう。

シーザーの方へ進む。

ブルー (カシヤスに) 何をいひました、ボビリヤス・リナは？

カシヤ 我黨の計畫の今日成功せんことを禱ると言ひました。我々の陰謀が洩れ

たらしい。

ブルー や、シーザーの傍へ行きますぞ。御注意なさい。

カシヤ カスカ、手早くおやんなさい、邪魔が入るかも知れない。……ブルータス、

どうしたらよからう？ 露見すれば、カシヤスカシーザーか、何方か、此門

を出ない、おれは自殺してしまふから。

ブルー カシヤス、安心なさい。ボビリヤス・リナは我黨の計畫を密告してゐるの

ではない。あれ、あの通り笑つて話してゐる、シーザーも平氣でゐる。



カシヤ ツレポニヤスは機を心得てゐます。ブルータス、御覽なさい、邪魔になる  
マーク・アントニーを伴出します。

アントニーとツレポニヤスと入る。シーザー及び元老等席に著く。

デシヤ メテラス・シンバアは何處にゐます？ さ、早くシーザーに請願させませ  
う。

ブルー とうに準備してゐる。手近に居て應援なさい。

シンバア カスカ、眞先に手を下すのは君だせ。

シーザー 用意は可いかな？ シーザーと元老會とで矯治せねばならんやうな事  
が何かありますか？

メテラ 高大無比にして權勢並ぶ者もなきシーザー閣下、メテラス・シンバアかく  
の如く、恭しく御前に膝まづきまして――

と膝まづく。

シーザ

シンバア、貴殿の申されることを遮らざるを得ない。その如く膝を屈し、

その如く言葉を卑うして申されると、尋常の人間は其高慢心を煽られた嬉  
しさに、一旦嚴重に言渡したことをも小兒輩がなす如く忽ち取消すまいも

のでもないが、此シーザーにもそんな卑しい血が――甘い言葉や低い腰や  
犬のやうな追従の爲に其心を蕩され其本性を失はしめられるやうなそん

な卑しい血が――通つてゐると思はれたら愚の至ぢや。貴殿の兄なる人  
は國家の嚴命で以て追放を命じたのである。今更貴殿が彼れの爲に腰を

曲げて禱らうとも、犬のやうに追従しようとも、吾輩は只貴殿を犬の如く  
蹴返すのみぢや。シーザーは不正な事をせんと同時に、正當の理由なくし

て罪を赦すことをもいたさん。

メテラ

こゝに居らるゝ人々のうちに、自分よりも徳が高く、自分の聲よりもシ  
ーザーの耳に快く響く聲を有たれた方はをられませんか、兄の追放赦免



の義をお願ひ下さる方はないか？

ブルー ジーザー、貴殿の手に接吻いたしまするが、これは追従ではありません、どうかバブリヤス・シンバアの追放を早速御赦免下されますやう。

シーザ やあ、ブルータス！

カシヤ 御宥免、シーザー。何卒御宥免。此通りカシヤスが膝まづいて願ひまする、バブリヤス・シンバアの御赦免を願ひまする。

シーザ 自分が君のやうな人間であつたら、當然心を動すでもあらう、また人の心を動す爲に敢て祈るやうな男であつたら、祈られて心を動すでもあらう。自分が決して動かん、正座不動の特質に於て、碧落中に又と類のない北極星の如くに。大空を彩る無数の火花は、ありや悉く星ぢや、又悉く光り輝く、併し其中で動ん地位を保つのは只一つぢや。人間界とても其通り。人の数は夥しい、何れも情を具へ、智を具へてゐる、しかも其多數中如何な

る事にも動されず嚴として其地位を保つ者は只一人、すなはち予ぢや。といふことの證據を聊か見するために、自分は斷然シンバアを追放し、斷然現状のまゝにいたしておく。

シンナ おゝシーザー！

シーザ 退れ！ オリンパス山を動す料簡か？

デシヤ 大シーザー閣下、――

シーザ ブルータスが膝まづいてすらも無効であつたぞ。

カスカ もう、此上は、腕力だ！

「同シーザーを刺す。」

シーザ ブルータス、お前までが！ では、もう！

シーザー死す。

シンナ 自由萬歳！ 自由萬歳！ 專制政治は斃れましたぞ！ 驅けて行つて、觸



れ廻れ、街中を呼ばつて歩け。

カシヤ 誰れか公演壇へ往つて呼ばはりなさい「自由萬歳、自由萬歳」と呼ばりなさい。

ブルー 公衆達も元老諸君も、怖れるには及ばん。逃げるには及ばん。じつとしてお在なさい。野心家を罰したまでです。

カスカ ブルータス、貴下は演壇へお出なさい。

デシヤ カシヤスもお出なさい。

ブルー バブリヤスは何處に居られる?

シンナ こゝにをられます、此騒動の爲に驚いて、茫然としてをられます。

メテラ 諸君、お集りなさい、或はシーザーの黨派の者が――

ブルー いや、集るには及ばん。……バブリヤス、御安心なさい。貴下の身に、いや、何人に對しても、害を加へようとしてはをりません。諸人に然う傳へて

下さい、バブリヤス。

カシヤ 速く此處を御退席なさい、今にも公衆が群り來つて、吾々の注意を聞かうと犇くはずみに、御老體に害を及すやうなことがあるとわらい。

ブルー さうなさい。此行爲の責任は、一へに吾々のみが負ふべきである。

ツレポニヤス 再び出る。

カシヤ アントニーは?

ツレポ 驚いて自宅へ逃歸りました。男も女も子供も目を見張つて、大審判日が來たやうにわめきたて、走り廻つてをります。

ブルー 運命を司る神々よ、あゝ能ふべくば豫め汝達の意志が知りたいたい。早晚死ぬものとは誰しも知つてゐる。人の重きを置くは何時死ぬか、何時まで生きてゐるかといふことである。

カシヤ して見れば、生命を二十年縮めてやるのは、死を怖れる苦痛を二十年だけ



縮めてやるやうなものぢや。

ブルー さあ、さう見れば、殺すのは恩恵である。すなはち死を怖るゝ年數をシーザーの爲に短縮してやつた吾々は彼れが親友に相違ない。……さあ、ローマ人諸君よ、シーザーの死骸に立寄つて血汐に手をお浸しなさい、めい、腕の附根までも。めい、めいの佩劍にもお塗りなさい。御一所に市場の中央へ出張して、お互ひに、頭上に紅ゐの劍を揮閃かいて、「平和萬歳、自由萬歳」と一齊に呼ばゝりませう。

カシヤ さあ、立寄つて手をお浸しなさい。……あ、此後幾百年を経る間に、今日我黨が演じた此壯烈な舞臺面が、そも幾たび劇に仕組まれ、そも幾たび演せられることやら、未だ生れぬ國土に於て、未だ知らぬ國語を以て！  
ブルー そも幾たびシーザーが戯れに血を流すことやら、今ポンペイの像の下に臥し倒れて塵埃同様に見えるシーザーが！

カシヤ 其演劇のたび毎に、我々の名は唱はれて、國家に自由を與へた志士ぢやと言はれませう。

デシヤ え？ 出掛けますか？

カシヤ 出掛けませう、さ、諸君、おちらへ。ブルータスが先導せられます。吾等は羅馬の最も勇敢な最も高潔な諸君と共にブルータスどのを警護してまゐりませう。

一 従者出る。

ブルー お俟ちなさい！ 誰れだか來ました。アントニー方の者だ。

従者 ブルータスどの、かやうに膝まづくと主人が申しつけました、かやうに下座をせいとマーク・アントニーが申されました、さて平伏いたいた上で、かやうに申せといはれました。……ブルータスどのの高潔にして賢明にして勇敢にして正廉にいらせられる、シーザーどのの偉大にして大膽にして高



貴にして慈愛深くいらせられた。すなはちアントニーはブルータスどのを愛し且つ敬してをります。シーザーどのをば畏れもし敬ひもし愛しもしてをりました。若しブルータスどのが、アントニーが安全に此方へ参上し得らるゝやう御保證下され、同時にシーザーどのを御殺戮あつた理由を篤と御説明下されまするならば、マーク・アントニーに於ては、必ずや死なれたシーザーよりも生けるブルータスどのを愛敬して、此後の形勢が如何相成りませうとも、悉く忠實にブルータスどのに随従し、事をも運命をも共にいたす決心にござります。かやうに主人アントニーが申されまする。

ブルー 御主人は賢明な、勇敢な羅馬人です。予は決して彼人をわるく思つたことはない。歸つてお言ひなさい、若し此方へお出下さるならば、十分辯明をいたさうし、又誓つて何事もなくお歸し申さうと。

從者 すぐに伴れて参ります。

從者 入る。

ブルー 彼は大丈夫身方になりませう。

カシヤ さうなれば結構ですが、予は甚だ心元なく思ひます。それに予の疑ひが兎角適中することが多いのですから。

アントニー 出る。

ブルー 併しもうアントニーが來ました。……ようこそ、マーク・アントニー。

アント (シーザーの死骸に) おゝ偉大なるシーザーよ! あゝ、こんなみすばらしい姿となられたか? 百戦百勝の光榮も名譽も戦利品も爵祿も、只こればかりの大きさに縮少してしまつたか? さやうなら。……諸君、自分は貴下方の御趣意は心得てをりません、他に血を流すべき者があるか如何か、誰れが誅せらるべきであるか、心得てをりません。若し自分が其一人であるな



らば、シーザーが最期の時に優す死時はありません、又貴下がたの其劍で、  
 全世界中の此上もない、貴い鮮血でちぬられた貴下がたの其劍で——  
 殺されるほど名譽なことはありません。自分をお憎しみならば、今貴下方  
 の手が韓紅に薫り煙立つてゐる最中に、どうぞ御存分に願ひたい。よし  
 一千年存命するとも、今日只今ほどに喜んで死ぬ日はありますまい。如何  
 なる場合も、どんな死方も、こゝでシーザーと枕を並べて、一代の烈士英傑  
 たる諸君の手にかゝつて死ぬほど本望ではありません。

ブルー

おゝアントニー！ 吾々に向つて死をお求めなさるな。此手や此回の行爲  
 を御覽なされば、吾々は如何にも残酷な血を好む徒輩とも見えませうが、  
 それは此手と此手がした残忍な結果を見て吾々の心を御覽なさらんから  
 だ。吾々は飽迄も慈悲、惻隱の心でしたのである。羅馬全國を痛ましいと  
 思ふ心が——火が火を消すやうに、一人を痛ましく思ふ小さい慈悲心を壓

カシヤ

倒して——シーザーを殺すに至らしめたのです。君は、マーク・アントニ  
 ー、君に對しては、吾々の劍も鈍り、腕力も脱け、心も兄弟のやうになつて、  
 懇ろに好意を表して、うやくしくお迎へいたします。

ブルー

これから役員を任免黜陟するに當つても、貴下の發言權を他の人のと同様に  
 重んずる積りです。

アント

只しばらくお俟を願ひたい、恐怖の餘り我を忘れんとしてゐる公衆共を吾  
 々が鎮撫してしまふまで。其上で、殺す間際までもシーザーを愛してゐた  
 自分が、何故かやうな行動をしたかをお話ませう。  
 諸君の賢明を疑ひはしません。御めいゝの血に染みたお手をいただき  
 たい。まづブルータス君に握手を願ひます。次にケイヤス・カシヤス君、  
 貴下の手を。さあ、デシヤス・ブルータス、貴下のを。さあ、貴下のをメテ  
 ラス。貴下のを、シンナ。それから勇敢なカスカ、貴下のを。最後に、併し



ながら最少の好意を以てははなく、ツレボニヤス君、貴下のを……諸君よ、  
 — あゝ自分は何と言はう？ 自分の信用は今あぶなく地に滑り落ちさう  
 になつてゐる、諸君は二つの悪名の何れかを自分に與へんとするに相違な  
 い、自分を卑怯者と見るか、輕薄な詭譎者と見るか。……おゝシーザー、予  
 は汝を愛してゐるのだ、愛してゐたのが眞實である以上は、若し今汝の亡  
 魂が此あたりさまよつてゐるならば、かうしてアントニーが汝の死骸の  
 面前で其仇敵の手を——羅馬の烈士英傑の——血に染みた手を握るの  
 を見て、汝は殺されたよりも朽惜しくは思はんだらうか？ 其傷口の數程  
 の目が予に有つて、其傷口から鮮血が湧出るやうに涙を流いたはうが、汝  
 の敵と和睦なんかするよりは予に似つこらしい仕草でもあらうに。……赦  
 いて下さい、シーザー！……あゝ勇敢な鹿よ、汝はこゝで追詰められて、こ  
 ゝで命を落した、さうして其獵師等は、汝の最期の血で韓紅に染まつて、

此處に立つてゐる。 おゝ大世界よ！ 汝は辛と此大鹿を容れ得る所の森  
 たるに過ぎなかつた、さうして此大鹿は、おゝ大世界よ、其森の主であつた  
 に。 あゝ、多勢の貴公子の獵矢にかゝつて射すくめられた鹿同様な、あさ  
 ましい此死様！

カシヤ

マーク・アントニー、——

アント

失禮、ケイヤス・カシヤス。 シーザーの仇敵でも、斯う言ひませう、さすれ  
 ば親友としては冷淡な弔辭です。

カシヤ

いや、予は君がシーザーを賞讃せられたのを答めるのではない、君は吾々  
 と如何いふ條件を規約しようとしてをられるのか、それを承知らうとした  
 のです。 君は我黨一味の中に名を列しようとしてられるのであるか、或は吾  
 々は君とは別に行動すべきであるか、承知りたい。

アント

いや、無論その爲に諸君と握手をしたのであつたが、シーザーの死骸を



見て、つい我を忘れました。無論自分は諸君と合體します、諸君に好意を表します、シーザーの誅せられねばならんだ理由は、十分説明して下さるであらうと信じますから。

ブル― その説明が出来んやうなら、これは暴舉です。これには十分推重せらるべき理由があります。アントニー、よし君がシーザーの實子であつても、満足せられるではありません。

アント 自分の要求はそれだけです。それから、それに加へて、シーザーの遺骸を市場へ持参すること、それから演壇で友人らしく彼れが爲に弔辭を演べることをお許し下されたい。

ブル― それは差支ありません、アントニー。

カシヤ ブルータス、一寸貴下に。……(ブルータスだけに) 貴下は今うっかり承諾なすつたが、弔辭は許さんほうがよろしい、公衆が彼れの言ふことを聞いて、ど

ブル― う感動すまいものでもありません。

失禮だが、最初に予が演壇に上つて、吾黨がシーザーを誅した所以を明かにします、同時にアントニーの弔辭は吾々が承知の上でやらせるのだと言ひませう、且つシーザーの葬儀を正式に執行するのも、是又吾々の快諾の上だと主張ませう。さうすれば我黨の利となるとも害にはなりません。

カシヤ どんなことが起るまいものでもない。予は好まないね。

ブル― マーク・アントニー、さ、シーザーの死骸を御持参なさい。弔辭をお演べなさる時分に、我黨を非難する口吻のないやうに、併しシーザーの美所は如何ほどお賞めなされても關はん、只吾々の許可を得て言ふのだと斷つて下さい。さうでない、君をシーザーの葬儀に参せしめることが出来ん。それから、予がこれから往つて演説する其同じ演壇で、予の演説の濟んだ後でやつて貰ひたい。



アント よろしい。それ以上を望みません。

ブルー では葬儀の準備をして吾々の後からお出なさい。

アント ニーだけを残して皆入る。

アント おゝ！ 赦して下さい、血に塗れた土塊となり果てたシーザーよ、子が汝を屠り殺いた奴等と睦じさうにしてゐるのを堪忍して下さい。あゝ汝は滄々として休むこと無き時の潮流中に生存した人間中の、最も高い、最も偉いなる者の遺骸だ。かういふ貴い血をむざむざと流しをつた奴等め、今に思ひ知りをらう。予は汝の傷口に對つて豫言しておく——物言はん多くの口のやうに、一つづつに眞赤な唇を開いて、どうぞ成代つて怨を演べてくれと求めてゐる此傷口に對つて豫言しておく——天罰は人々の四肢五體に降り下つて、内亂起り、骨肉相食み、伊太利全國到處死骸の山を築き、殺傷破壊は尋常一般の事となり、怖ろしい事も見慣れ聞慣れ、現在の母

親が其幼兒の兵刃に切り裂かるゝを平氣で笑つて見るほどゝもなり、殘忍な所行ははびこり、慈悲の息の根は止るであらう。さうなれば、シーザーの亡靈は、今こそ復讐すべき時と、焦熱地獄から驅け來つた惡魔神を身側に従へ、こゝらあたりを徘徊して國王らしく大音聲に、「かゝれ〜！」と號令をして、彼の怖ろしい兵の犬を放つであらう。すなはち此無慚な所行は、埋葬せられんで唸き苦む死骸と共に、地上に惡臭を漲すであらう。……

一 従者出る。

君はオクターギヤス・シーザーどのに仕へてゐる人ではないか？

従者 さやうでござります。

アント シーザーどのが過日オクターギヤスどのに羅馬へ參らるゝやう申し送られた筈ぢや。

従者 其御書面を入手せられましたので、主人は參らるゝのでござります、就き



ましては、口上を以て手前から貫下さまへ……お、シーザー！  
死骸を見て驚く。

アント 胸が一ぱいになつたであらう、彼地へ往つて泣くが可い。……愁歎は傳染するわい、お前の目に哀珠が宿るのを見たら、子の目も濡つて來た。……御主人は程なく見えるかね？

從者 今晚は羅馬から十里以内の處に宿られまする筈でござります。

アント 大急ぎで戻つて行つて、此大變を傳へて下さい。目下の羅馬は喪中の羅馬だ、危険千萬の羅馬だ、オクターギヤスが安心して入城せられる譯にはゆかん。急いで歸つて、然うお傳へなさい。……いや、一寸俟つたり。……お前は予が此死骸を市場へ持つて行くまでは歸つちや不可。予は彼處で演説をして、公衆が此殘忍な所行を如何感ずるかを探つて見ようと思ふから、其模様によつてオクターギヤスどのへ事情を傳へて貰ひたい。手を

貸して下さい。

シーザーの死骸を携へて二人と入る。

第二場——市場。

ム合

反

ブルータス、本、カシヤス、出、其後、多勢の市民、物

市民等 其理由を聞かして貰はう、理由を聞かして貰はう。

ブルー では従いて來て、聽いて下さい。……カシヤス、君は彼方の街へ往つて下さい、聽衆を二手に分けよう。……子の演説を聴かうとする諸君は此處にお留りなさい。カシヤスに従いて行く人達は彼方へお出なさい。國家の爲



にシーザーを誅した所以を演説します。

一市民

わしはブルータスの演説を聴かう。

二市民

わたしはカシヤスの聴かう。さうして双方のを比べて見ることにしよう。別々に聴いてね。

カシヤス 市民の若干をひきつれて入る。ブルータス 演壇に上る。

三市民

ブルータスどのが登壇せられた。静かに！

ブルー

済むまで静肅にして下さい。……羅馬人よ、國人よ、親友諸君よ！ 予の主

意を聴いて下さい、注意を聴いて下さるために静かにして下さい。どうか予の人格を信じて下さい、信じて下さるために予の人格に重きを置いて下さい。予は諸君の賢明な批判を乞ひます、どうか賢明な批判者たるに適するやうに、諸君が分別力を活用せられんことを望みます。……若し此群衆中にシーザーの眞の親友と稱すべき人が居らるゝならば、予は其人に對

得也

つて、ブルータスがシーザーを愛する心も決して其人に劣らなかつたと断言します。然らば何故ブルータスはシーザーに刃を加へたかと、斯う其人が問はれたならば、予は斯う答へる。それは、シーザーを愛する心が薄かつた爲ではない、羅馬を愛する心が更にそれよりも厚かつた爲であると。

諸君はシーザーが生きてゐて、それが爲に一同が奴隸となつて死ぬのを望まれますか、シーザーが死んで一同が自由の人民となるよりも？……シーザーは予を愛してくれたゆゑに、予は彼れの爲に泣きます。彼れは好運であつたゆゑに、予はそれを喜びます。彼れは勇敢であつたゆゑに、予は彼れを尊敬します。併しながら彼れは野心を抱いたゆゑに、予は彼れを誅戮しました。愛に報ゆるには涙を以てし、幸運を祝ふには歡びを以てし、勇敢を稱するには名譽を以てし、野心を討するには死を以てする。……此處に奴隸となるのを願ふやうな卑劣な人間が一人でもあるか？ 有るならお



言ひなさい。其人に對しては、予は罪を犯した。此處に羅馬人たることを欲しないやうな野鄙な人間が一人でもあるか？ 有るならお言ひなさい。其人に對しては、予は罪を犯した。此處に其國を愛しないやうな卑劣な人間が一人でもあるか？ 有るならお言ひなさい。其人に對しては、予は罪を犯した。予は返答を俟ちます。

市民等

無いよ、ブルータス、無いよ。

① ブルー

では、何人に對しても予は罪を犯さないのである。シーザーに對して予の爲た事は、諸君がブルータスに對してなさるべき事に外ならんのです。シーザーを誅した理由は、逐一議事堂の記録に登記してあります、彼れが榮譽功績に屬する事を滅殺しないと同時に、誅さるゝに至つた所以の罪惡の如きも決して誇張してはありませぬ。……………

アントニー及び其他の者シーザーの死骸を擔荷ひつゝ出る。

あそこへ、マーク・アントニーが喪主となつて、シーザーの死骸を持參しました。彼れはシーザー誅戮の企圖には與りませなんだが、其利益は享樂して、此共和國に於ける相當の權利を得る筈です。これは諸君とても同様であります。……さてお別れするに臨んで、一言申すことは——予は羅馬の幸福の爲に又と無い親友を殺したのであるから、同じ短劍の此身に對して用ひられんことを望みます、若し我國が予の死を欲する場合となつたらば。

市民等

ブルータス、萬歳！ 萬歳！ 萬歳！

一市民

凱旋式で以てブルータスを自宅まで伴れてゆかう。

二市民

先祖のブルータスのと並べて肖像をおつたてようせ。

三市民

シーザーにしようあの男を。

四市民

シーザーの美所だけがあの男の名譽とならうといふものだ。



一市民 みんなで喝采したり囃したりしてブルータスを自宅まで伴れてゆかう。

ブルー 國人諸君よ――

二市民 しつ！ しつ！ 静かに！ ブルータス君の御演説だ。

一市民 静かに！

ブルー 國人諸君よ、予は一人で歸らして下さい。お願ひですから、諸君はアントニーと共に此處に留つて下さい。シーザーの遺骸に敬意を表して下さい、且つシーザーの舊功を稱するアントニーの弔辭を聽いてやつて下さい、わたし共が許してさせるのでありますから。予がお願ひします、アントニーの弔辭が済むまでは、一人も退場せられないことを望みます。  
ブルータス 入る。

一市民 待つたり！ マーク・アントニーの弔辭を聽かうよ。

二市民 アントニーを演壇へ上らせませうせ。弔辭を聽きませう。……アントニー君、お登んなさい。

アント ブルータス君のお庇で、諸君かたじけなく存じます。ト言はれど、演壇へ上る。

四市民 ブルータスの事を何と言つた？

三市民 ブルータス君のお庇で、諸君に對し、かたじけなく存じますと言つた。

四市民 こゝでブルータスの事を悪く言つちやあ大變だからな。

一市民 あのシーザーといふ奴は酷い奴だつたね。

三市民 そりや君、定つてらあね。あんな奴の居なくなつたのは羅馬の幸福だね。

二市民 しつ！ アントニーが如何なことを言ふか、聽かうせ。

アント 諸君よ、羅馬人諸君よ――

市民等 おい！ しづかに！ 聽かうせ！

アント 親友よ、羅馬人よ、國人諸君よ、御静聽を煩はしたい。自分が此處へ參つた



のは、シーザーの葬儀を行はんが爲で、彼れを稱讃せんが爲ではない。人の行つた悪事は其死後までも残るが、善事は往々にして其骨と共に埋没します。シーザーの如きもまた然うあらしめたはうがよろしい。……ブルータス君はシーザーは野心を抱いたと申された。果して然らば、それは甚だ痛ましい過失であつて、シーザーは甚だ痛ましい應報を蒙つたのである。こゝにブルータス君をはじめ其他の人々の許可を得て——蓋しブルータスは公明正大の人であり、又其他の人々も悉く公明正大の人々でありますから——許可を得て、こゝにシーザーを葬るの辭を演べるのであります。……彼れは自分の親友であつた、自分に對しては忠實な、公平な友であつた。が、ブルータスは、彼れは野心を抱いてゐたと言はれる、而してブルータスは公明正大の人である。……シーザーは嘗て夥多の捕虜を羅馬へ伴ひ還つた、其價金は悉く國庫に收められた。此の、シーザーの行爲が野心

家らしく見えませんでしたらうか？……嘗て貧民が飢餓に叫ぶのを聞いてシーザーは涙を流した。野心は一層峻酷な素質のものでなければならん。なれどもブルータスは彼れは野心を抱いたと言はれる、而してブルータスは公明正大の人である。……諸君は何れも御覽になつたであらう、リュウバアルの祭日に於て、自分は三度まで王冠をシーザーに呈した、彼れは三度までも辭した。あれが野心でありませうか？……なれどもブルータスは彼れは野心を抱いたと言はれる、而して確かにブルータスは公明正大の人である。自分は決してブルータス君の言はれたことを駁撃しようとするのではない、只知つてゐる限りの事實を申すのである。……諸君は何れも嘗てシーザーを愛してをられた、それには理由が無かつた譯ではない。然らば、如何なる理由で諸君は彼れを哀悼することを差控へられまする？……おゝ判断力！ 是非を判する分別力は、今は獸類なぞの有に歸し



て人間は理性を失つてしまつたのか? ……御免下さい。子の精神はシーザーと一しよに此柩の中に入つてしまつてゐる、それが戻つて来るまでは物が言はれません。

一市民 大言つてることに道理があるやうだね。

二市民 正當に考へて見ると、シーザーは甚しい冤罪を蒙つたとも言へるね。

三市民 ね、さうでせう? もつと悪い奴が出て来て代るまいものでもないからね。

四市民 アントニーの言つたことにお氣が附きましたか? シーザーは王冠を受けませんでした。だから確かに彼れは野心家ぢやなかつたのです。

一市民 いや、さうだとすると、何處の都合が嚴重い目に逢ふでせう。

二市民 やれ、氣の毒なこつた! 涕で以て目が火のやうに赤くなつてゐる。

三市民 羅馬中にアントニーほどの偉い人はないなあ。

四市民 さあ、聞いたたり。又始めますよ演説を。

アント

つい昨日まではシーザーの一言は全世界に匹敵するものでも出来たのであつた。今や彼れは此處に横たはり、如何なる卑しき匹夫と雖も彼れに尊敬の意を致さうとはしない。…お、諸君よ、若し自分がかかりにも諸君を煽動して憤激せしめ、反抗の念を起さしめるやうであると、是れ取りも直さずブルータスを傷け、カシヤスを傷くることとなる、が、彼人達は、諸君御存じの通り、公明正大の人々である。自分は彼の人々を傷くることを欲しない。自分は、あのやうな公明正大な人々を傷くるよりは、寧ろ世に亡き者を傷け、自分を傷け、諸君を傷けたほうが當然と思ふ。…併しながら此處にシーザーの捺印を経た一葉の書面がある。自分は之をシーザーの納戸内に於て發見しました、すなはち彼れの遺言状である。若し平民諸君をして、只一寸此遺言状の主旨を聴かしたならば、—御免なさい、無論自分ば讀みはしないが、—若し聴かしたならば、諸君はシーザーの死骸



に驅寄つて、其傷口に接吻し、其神聖な鮮血に各自の手巾を浸すどころでなく、其頭髮一筋をも後の紀念にと争ひ求めて、其身死なんとする間際には、遺言中にそれを記入し、永く子孫に譲り傳ふべき寶物ともせらるゝであらう。

四市民

其遺言狀が聴きたい。讀んで下さい、マーク・アントニー。

市民等

遺言狀、々々々！ シーザーの遺言狀が聴きたい。

アント

まあ、お鎮りなさい。遺言狀を讀んではなりません。シーザーが深く諸君を愛してゐたことを諸君が知らるゝのは宜しくない。諸君は木でも石でもなく、人間である。既に人間である以上は、シーザーの遺言狀を聴かれたならば、必ずや深く感激して狂氣の如くにもなるゝであらう。諸君はシーザーの財産の相續人ぢやなぞといふ事は知られんがよろしい。若しそれを知られたらなら、おゝ！ 何様な事になるやら圖られない。

四市民

遺言狀を讀んで下さい！ 是非聴きたいんです、アントニー。是非遺言狀を讀んで下さい、シーザーの遺言狀を。

アント

しばらく。しばらく待つて下さい。……あゝ、つい不覺的口走つてしまつた。公明正大の目的の爲に、短劍を以てシーザーを刺殺いた人達を傷くることにならねばよいが、あゝ、困つたことになつた。

四市民

彼奴等は謀叛人だ。公明正大どころかい！

市民等

遺言狀を！ 其書面を！

二市民

彼奴等は悪黨だ、人殺しだ。遺言狀を！ 遺言狀を讀んで下さい。

アント

では、どうしても遺言狀を讀めと言はれますか？ では、シーザーの遺骸の周圍へ環形におんななさい、遺言狀を製した當人を諸君に見せませう。……壇を降りませうか？ 下りてもよろしいんですか？ お下りなさい。

市民等

お下りなさい。



二市民 降りたまへ。

三市民 よろしいです。

アントニー 壇を下る。

四市民 環形だ。圍繞くんた。

一市民 柩から離れろ。死骸から離れろ。

二市民 アントニーさんの道を開けろ。どうも實に偉いアントニーさん。

アント これ、さう押しては不可。すつと離れて下さい。

市民等 退れ！ 開けろ！ 退れ！

アント 諸君に若し涙があるなら、今こそ流す準備をなさい。……諸君は何れも此

外套を御存じであらう。予はシーザーが始めて之を著用した日を覚えて

ゐる。それは或夏の夕方、勁敵ネルワイ族を征伐して大勝利を得た其日

に、陣營中で被たのであつた。御覽なさい、これ此處をカシヤスの短劍が

刺貫いたのだ。御覽なさい、奸賊カ

スカメが如何なに斫つたか？ 此處

をば子のやうに愛せられてゐたブ

ルータスが突通いたのだ。すなは

ち彼れが其惡むべき刃を抜取つた

其途端に、御覽なさい、シーザーの

鮮血が其後を追つて、さながら人が

戸口から走り出るやうに流れ出で

たのを、今無慚な叩き方をしたのは、

よもやブルータスではあるまいか

と、見定めんとしたかのやうに。何

故なれば、ブルータスは、諸君も御





存じの通り、シーザーの守神同様であつたからです。如何に深くシーザーが彼を愛してゐたかは、お、神々よ、あなたがたが御承知のことだ！ これこそ最も残忍無慈悲な切口であつたのだ。流石の大シーザーもブルータスが自己を刺すを見ては、——謀反人の力よりも遙かに怖ろしい彼れが知らずの振舞を見ては——流石の大勇氣も打挫かれ、おのが外套で面を掩うてポンペイの像の脚下にすらも大シーザーは倒れたのだ、血汐は泉と流るゝ間に。お、！國人よ、同胞よ、シーザーが倒れたのは國が倒れたのも同様です、それと同時に自分も、諸君も、吾々悉くが倒れたのだ、而して残忍無慚の叛逆人等は倒れた吾々を眼下に見下いて、凱歌を奏し勝誇つた。……お、！今こそ諸君は泣く。して見ると、流石に惻隱の感に堪へられん<sup>と見える。</sup>お、其涙こそは恩を知り義を知る涙だ。……やあ！ 諸君、これは只シーザーの外套に傷が附いたに過ぎない、然るに諸君は之を見てさへも

*Quelle Vandalen  
の二句 後 21  
24 頁 22*

お泣きなさるか？……さ、これを御覽なさい、これが本人です、これ此通り、謀反人共に切りさいなまれた本人です。

一市民 おゝ氣の毒な有様ぢや！

二市民 おゝ偉い〜シーザーどのを！

三市民 おゝ情ないことぢや！

四市民 おゝ謀反人めら！ 悪黨めら！

一市民 おゝ無慚なく有様！

二市民 復讐をしよう。

市民等 復讐をしよう！——出かけろ！——捜せ！——焼討しろ！——火をつけろ！——殺せ！——やつつけろ！——謀反人めらは一人でも生かしてお

くな。

アント お待ちなさい、お待ちなさい。



一市民 しつ／＼！ アントニーさんが何か言つてゐる。

二市民 おい／＼、あの仁の言ふことを聴かう、あの仁に従いて行かう、あの仁と一しよに死なう。

アント

深切なる諸君、親友諸君よ、自分の申したことが原因となつて、諸君が然う妄に唐突に暴擧に及ばれるやうなことがあつては成りません。此度の事を行つた人達は、何れも公明正大な人々であります。如何なる私怨私憤があつて、嗚呼！ かやうな事を敢てせられたか、それは自分の知る所でない。ともかくも彼等は賢明でもあり、又公明正大でもあるから、無論諸君に對して、道理らしい辯解をせらるゝであらう。親友諸君よ、自分は諸君の心を盗まうとして來たのではない。自分はブルータスのやうな雄辯家ではない。否、諸君の豫て御存じの通りの、質樸な、木訥な、只友を愛するだけの男である、それをまた彼等が知つてをればこそシーザーの爲に公け

に演説することをも許したのである。無論予は才智もなければ文字もな

く、徳もなく、身振手眞似も下手なれば表白法も知らず、辯舌も拙く、逆も

人の血を攪亂するやうな力はない。予は只眞直に辯じ得るのみである。

諸君の知つてをらるゝ事實其儘を諸君に話して、なつかしいシーザーの傷

口を、——哀れな、無慚な、物を言ひ得ない口を——諸君に見せて、予は代

つて語らしめたまでである。が、若し予がブルータスで、ブルータスが予

であつたならば、必ずや諸君の心を攪亂して、羅馬街頭の石をすらも奮起

せしめ、忽ち暴動を起さすやうな雄辯をシーザーが一つ／＼の傷口から發

せしめたでもあらうものを。

暴動を起さう。

一市民 ブルータスの家を焼いてくれう。

三市民 ちやあ、出掛けろ！ さあ／＼、徒黨の奴等を搜し出せ。



アント まあお聴きなさい、諸君。まあ、予の言ふことをお聴きなさい。

市民等 しつゝ——聴け、アントニーさんの言ふことを。——えらいもんだなあアントニーさんは。

アント 諸君よ、君がたは理由をよう承知しないで事をしようとしてをられる。シーザーは何故にそれほどまでに諸君に愛慕せらるべきであるか、御存じか？ あゝ！ 諸君は御存じでない。然らばそれを改めてお話しねばならん。諸君は先刻申した遺言状の事をお忘れなすつたのだ。

市民等 さう——！ 遺言状！ 諸君待つたり、遺言状を聴かうよ。

アント これがシーザーの捺印を経た遺言状です、シーザーは羅馬市民各自へ、一人々々へ、七十五ドラクマを與へまする。

二市民 實にどうも立派な人だシーザーは！ 復讐をしよう。

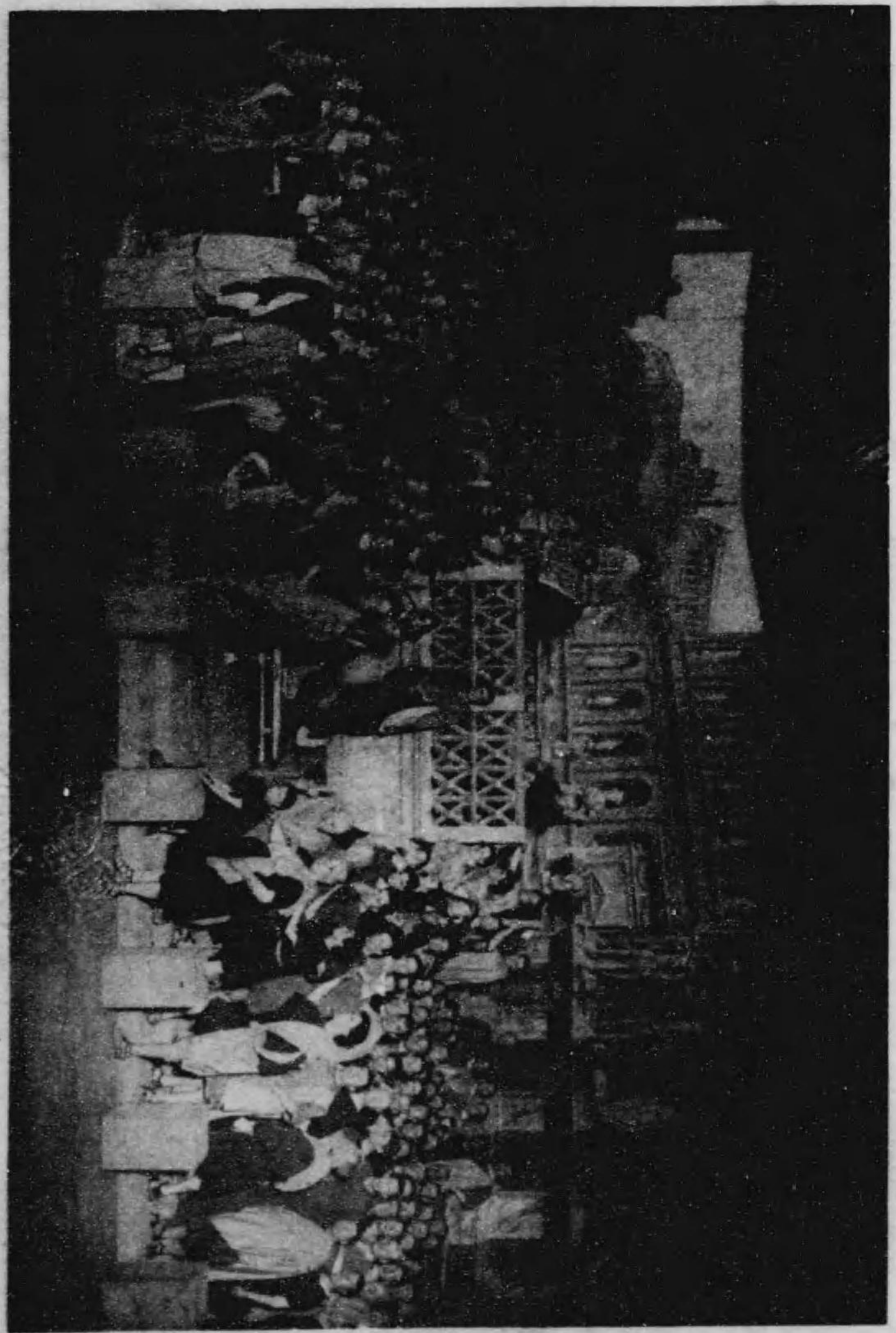
三市民 どうも實に豪儀な人だなあシーザーは！

Sir H. Beerbohm Tree

as Mark Antony.

Act III., Sc. III.





Act III, Sc III

as Mark Antony.

Sir H. Beecham Tree



アント 静かにして聽いて下さい。

市民等 しつゝ！

アント 尙其上に、彼れは自分の遊歩地を悉く諸君に譲りました。即ち彼れの私有に屬する各處の涼亭をはじめ、近時新たに樹木を植附けさせたタイバア河の此方岸の各處の庭園をば、諸君及び諸君の子孫に、永久に譲渡いて、諸君をして其處で享樂せしめ、自由に逍遙せしめ、疲勞を慰めしめんことを望んでゐる。シーザーは斯ういふ人であつた！ 何時又斯くの如き人が來るであらうか？

一市民 もう決して來ん、もう決して！……さあ、出掛ける！ 齋場へ往つて遺骸を火葬にして、それから其燃さしを炬にして謀反人共の家を焼かう。……死骸を持ち上げる、死骸を。

二市民 さ、火を取つて來い、火を。



三市民 腰掛をぶつたふせ。

四市民 長床几をぶつたふせ、窓を毀せ、何もかも叩き毀せ。

死骸を携へて市民等皆入る。

アント 思ふ壺だ……あとは如何ならうとも、此方の關ふこつちやあない。……

一從者出る。

何だ？

從者 オクターギヤスどのは既に羅馬へ著せられました。

アント 何處にをられる？

從者 レビダスどのと御一しよにシーザー邸にをられます。

アント 直訪ねることにしよう。丁度待つてゐたところだ。運命の神の機嫌が好

い、此體では如何な願ひでも叶へてくれさうだ。

從者 噂によりますと、ブルータスとカシヤスは、まるで狂人のやうに馬を走ら

アント

せて羅馬の都門を脱出しましたげにござります。  
多分おれが公衆を感動させたことを洩聞いたのであらう。……オクターギ  
ヤスの處へ案内せい。

アントニーも從者も入る。

第三場——同處。一街頭。

詩人 シンナ出る。

シンナ

昨夜シーザーの宴會へ招ばれた夢を見た。何だか不吉な鹽梅式に神經が  
働いて困る。外出する氣は無いのだが、何となく出ずにはをられない。



市民等出る。

一市民 君の名前は？

二市民 君は何處へ往くんのだ？

三市民 君は何處に住んでる？

四市民 君は妻が有るか、獨身者か？

二市民 各自へ返答なさい、真直に。

一市民 さうだ、簡潔に。

四市民 さうだ、賢明に。

三市民 さうだ、眞實に——返答するのが當然だ。

シンナ え、わたしの名？ え、何處へ往く？ え、何處に住つてゐる？ 妻がある

か、獨身者か？……では、御各自へお答します、眞直に、簡潔に、賢明に、眞實に……では先づ、賢明なお答、わたしは獨身者です。

二市民 さういふと、何だか、妻を有つてると答へる奴は馬鹿だといふやうに聞え

るぞ。おい、そんなことをいふと一本お見舞申すかも知れんぞ。……それから、さ、眞直に。

シンナ 眞直に、これからシーザーどの、葬式へ参ります。

一市民 身方としてか、敵としてか？

シンナ 身方です。

一市民 こりや眞直な返辭だ。

四市民 君の住所は？ さ、簡潔に。

シンナ 簡潔に、議事堂脇です。

三市民 名前は？ さ、眞實のところ。

シンナ 眞實のところ、名はシンナ。

一市民 やつ、ける。徒黨の一人だ。





シンナ

わたしは詩人のシンナぢや、詩人のシンナぢや。

四市民

やつ、ける、拙い詩を作りやあがつた罰だ、悪い詩を作りやあがつた罰だ。

シンナ

わたしは徒黨のシンナぢやない。

二市民

かまつたことはない、名がシンナだ。野郎の心の臓から名前を引こ抜いて、おつ拂つちまへ。

三市民

やつ、ける。さあ、燃さしを持つて来い、燃さしを！ 炬火々々！ ブルータスのところへ往け、カシヤスのところへ。みんな焼いつちまへ。だれかデシヤスの家

往け、それから誰れかカスカのところへ。だれかりゲーリヤスのところへ。あつちへ〜！ さあ〜！

みなくはい  
皆々入る。

\*

\*

\*

\*

\*

\*

\*

\*

\*

\*

\*

\*

\*

\*

\*



第四幕

第一場——羅馬。アントニー宅の一室。

アントニー、オクテギーヤス及びレビダス 出る。

アント では此連中は死刑とします。名前に記號を附けました。

オクテ 貴下の兄貴も死刑にせにやならんが、御承諾ですか、レビダス？

レビダ 承諾はしますが——

オクテ 記號を附けて下さい、アントニー。

レビダ 其條件として、マーク・アントニー、貴下の姉御の子息バプリアスも同刑に

處することにして貰ひたい。

アント 彼れも生かしちや置きません。御覽なさい、此通り點を附けて死罪仲間に

します。……時に、レビダス、君はシーザーの邸へ往つて、例の遺言狀を取

つて来て下さい。こゝで協議して、遺産の支拂額を多少削減することにし

ませう。

レビダ え！ 此處へ持参すればよろしいのですか？

オクテ 若しこゝにゐなければ議事堂にゐます。

レビダス 入る。

アント やくざな、長所の無い男だ、使に行く位が相應だ。天下を三分した場合に、

奴に其一分を有せしめるのは當然でせうかな？

オクテ 當然だと思ひなすつたればこそ、貴下は公敵宣告の協議にも與らせ、死



刑相當者の調査にも彼男の賛否をお求めなすつたのぢやあないかね？

アント

オクターギーヤス、予は貴下よりも年を取つてゐますよ。譏誣誹謗の因となる負擔を吾々のみで負はないために、わざと一時奴に榮職を荷はせておくものゝ、つまり彼奴は、譬へば、驢馬が金貨を荷つて行くと同じ格で、其榮譽を荷つてゐるのです。吾々が方向を指圖するに随つて、引張られたり追立てられたりして、重荷の爲に汗を流して唸きながら、吾々の欲する處へ寶物を運んで行く、やがて其荷物を下してしまへば放免する、と丁度身輕になつた驢馬のやうに、長い耳を一振揮つて、共同牧場で飼草にありつかうといふ仲間です。

オクテ

お好み通りになさるのは結構でせうが、彼男も中々場数を踏んだ勇敢な武人ですから。

アント

予の馬がさうです、オクターギーヤス。で予はそれに對して、平生十分の飼

草を與へておきます。予が教へて戦はせもする、ぐるりと廻らせもする、止らせもする、驀地に突進させもする、要するに一進一退悉く予の意志のままなのです。そこで、或意味に於て、レビダスが全くそれです。あれは教へたり馴したりした上に號令をかけねば役に立たん。働きの無い男だ。他人の使ひ棄を拾つたり、人真似で智慧を補つたり、しかも世間ではもう夙に廢滅に歸した頃に、珍しげにそれをやりかける男です。彼れは、只もう小道具同様だと思ひなさい。……さて、そこで、オクターギーヤス、大切な事件があります。ブルータスとカシヤスは頻りに兵を募つてゐるといふことだ、此方も速かに集合せねばならん。ですから、先づ同盟者共を糾合し、有力な手合を身方にし、十二分に軍備を擴張しませう。同時に、如何にして公然の危害を鎮壓すべきか、又如何にして未發の陰謀を探偵すべきか等、早速御相談に取掛りませう。



オクテ さやういたしませう。吾々は枕に縛り附けられた熊同様、敵を八面に控へてゐる。笑顔を見せてゐる手合も、胸には百萬の苦心を包蔵してゐるらしいから油断が出来ません。

二人ともに入る。

第二場——サーデイス附近の陣營。ブルータスの天幕前。

太鼓。ブルータス、ルシリヤス、ルシヤス及び兵士等出る、タイチニヤスとピンタラスは他方より出て、前の一群と相逢ふ。

ブルー とまれ！

ルシリ 合言葉を！ とまれ。

ブルー おい、どうだね、ルシリヤス！ カシヤスは来るかね？

ルシリ 直見えます。ピンダラスが御主人の吩咐で、御挨拶の爲に参られました。

ブルー それは御丁寧なことだ。……ピンダラス、御主人は、近來人柄が一變せられたのか、或は下役に不都合な者があつた爲かも知れんが、あゝいふ事は決してせらるべきでないと思ふやうな事をせられた。然し程なく此處へ見えるとあれば、十分辯解せられるでもあらうが。

ピンダ 手前におきましては、主人は飽迄も立派な人物と信じてをりまする。

ブルー さうもあらう。……ルシリヤス、一寸。……彼男が先日君を待遇した模様は、何様でした？

ルシリ 慇懃に、且つ頗る鄭重に。併し其以前のやうに極打解はて腹藏なく親友らしく話をせらるゝといふやうなことはありませんでした。



ブルー それでよく分ります、熱かつた友誼の冷却した有様が。ルシリヤス、常に注意なさい、眞の愛情が衰へはじめると、言葉遣ひや其他が故意らしく鄭重になるものです。生地の儘の信實には何の小技工もないが、心に誠の無い者は、平生手で引立てられる時に荒廻る馬の様に、勇敢さうに見えてゐて、存外實戦の役には立たず、忽ち首をうなだれてしまふ、丁度さういふ駄馬同様に、いざといふ時の頼にはならん。……彼れの兵は來ますか？

ルシリ 今晚サーデイスに宿泊することになつてゐます。大部分、即ち騎兵全部がカシヤスどのと共に参ります。

奥にて調子低く進軍の樂聞える。

ブルー や！ 來たらしい。……徐かに進め、出迎ひをしよう。

カシヤス 兵をひきつれて出る。

カシヤ とまれ！

ブルー とまれ！ めい／＼合言葉を。

第一兵 とまれ！

第二兵 とまれ！

第三兵 とまれ！

カシヤ 大兄、貴下は予に對して不正な事をなすつた。

ブルー 神々も照覽なされ！ 自分が曾て敵に對して、何も不正な事を働いたこと

があるか？ 若し無いとすれば、如何して兄弟に對つて不正を働くか？

カシヤ ブルータス、さういふ沈著拂つた顔をしてゐて、貴下は内々不正なことをなさる。貴下が不正を――

ブルー カシヤス、まあお待ちなさい。靜かに不平をお述べなさい。予は君の性質を善く知つてゐる。お互ひに部下の者には何等不和もないやうに見せておかねばならん、こゝで爭論するのは止めよう。カシヤス、彼等を退かせ



ておいて、其後子の天幕内に於て十分に不平を述べられるが可い、とくと承  
はりませう。

カシヤ ビンダラス、將官共に、部下の者を少々遠ざけるやうに申しつけろ。

ブルー ルシヤス、其方も同様に取計らへ。密談の済むまでは、だれも天幕へ来て  
はならんぞ。……ルシリヤスとタイチニヤスは入口の番をして下さい。

皆々入る。

第三場——ブルータスの天幕内。

ナルータスとカシヤスと出る。

カシヤ 貴下が不正な事をなすつたといふ證據は斯うだ。貴下はルシヤス・ペラが

此處でサーデイヤ人から賄賂を取つたといふので、彼れを告發して罪名を  
お附けなすつた、それについて子は彼れの爲に宥免を乞ふ書面を送つて—  
—といふのは、彼れが貶辱を受けた上に放逐せられたと聞いたからで—  
ブルー あのやうな場合に調停の書を送るなどは、君みづからを侮辱するやうなも  
のだ。

カシヤ あのやうな場合には、瑣末な犯罪は成るだけ寛大に見逃すべきです。

ブルー カシヤス、子は敢て言ふが、君みづからが大分貪婪家だといふ非難がある。  
黄金の爲に無能な者に官職を賣るといふ非難がありますぞ。

カシヤ 子を貪婪家ぢや！ブルータス、貴下はそれを言ふのはブルータスぢやと  
承知して言はれるんぢやが、さうでなくば、今の一言は、必ず、貴下の最後  
の言葉でありましたらうぞ。



ブルー カシヤスといふ名前があるので賄賂請託の醜を掩ふ。さうでなくば、とうに懲罰が下るべきだ。

カシヤ 懲罰!

ブルー お忘れなさるな三月を、三月の十五日をお忘れなさるな。大シーザーが血を流したのは正義公道の爲ではなかつたか? 彼れを殺すに與つた者で、正義公道の爲でなくつて、彼れの身體に手を觸れた卑劣漢が一人でもあつたか? えッ! 盜賊を扶掖するやうな行爲があつたればこそ、それが爲にこそ現代無比の英傑を誅戮した吾々が、今更穢い賄賂に指を汚いて、斯うして擱める程の日腐れ金に代へて、宏大無邊な大切な名譽が賣られるか? そんな羅馬人になる位なら、寧ろ犬になつて月に吠えたほうが優だ。ブルータス、さう咬附くやうにお言ひなさるな、堪忍に限りがありますぞ。予を束縛しようとするのは自己を忘れた振舞ですぞ。予は武人ぢや、兵事

カシヤ

にかけては貴下よりも年を取つてゐる、將校任免の手心なぞも貴下より年功ですぞ。

ブルー 何の、そんなことがあるものか。

カシヤ あります。

ブルー いゝや、ない。

カシヤ 大抵になさらんと、何をするか知れませんが予は、身の安否を考へて、あんまり予を挑發なさらんが可い。

ブルー 去つちまへ、小人!

カシヤ どうも實に!

ブルー これ、よくお聴きなさい。君が疝癰を起したからとて、予が讓歩する必要が何處にあるか? 狂人が目を怒らしたからとて、予がそれを怖れる必要が何處にあるか?



カシヤ お、神々よ！ 神々よ！ これほどに言はれても、忍耐せねばならんか？  
ブル― 勿論だ！ これ以上をも。其高慢な心の臓が破裂するまで腹を立つが可

い。其疔癩を君が使つてゐる奴隷に見せて戦へ慄かすが可い。予が何の必要あつて辟易し、何の必要あつて君の機嫌を取らうぞ？ 君が疔癩を起したからつて、何の必要あつて突立つたり平伏したりしようぞ？ 君は勝手に、自分で以て疔癩の毒を始末するがよろしい、胸が裂けうと腹が裂けうと。これから以後、君が疔癩を起せば、予はそれを好い慰み、好い笑柄にする積だ。

カシヤ 餘といへば――

ブル― 君は今予よりも優つた武人だといつた。其證據が拜見したい。其高言の實證を見せて下されば、満足の至です。自分は喜んで英邁の士の教を受けようと思つてゐる。

カシヤ 貴下は實に酷いことを言ふ。貴下は實に酷い、ブルータス。予は、武人と

して貴下よりも年長ぢやと言つたはかりです、優つてゐるとは言やあしない。優つてゐるといひましたか？

ブル― いつたつても關はん。

カシヤ シーザーが生きてゐたつてもこれほどまでには、敢て予を怒らせはせなんだであらうに。

ブル― 静になさい、静に！ 君はそれほどまでには彼れに刃向ひ得なかつたのだ。

カシヤ 刃向ひ得なかつた？

ブル― さうさ。

カシヤ えッ？ 予がシーザーに刃向ひ得なかつたと？

ブル― 命が惜しいから、刃向ひ得なかつたのだ。

カシヤ あんまり予の愛をお頼みなさるな。予は自分で後悔するやうな事をしか



ねませんぞ。

ブルー

君は後悔せねばならんことをしたのだ。カシヤス、君が幾ら威しても予は少しも怖しくない。予は正義の甲冑で堅固に身を固めてゐるから、君の恐怖は空吹く風同様、念頭に置かない。予は君の處へ使者を送つて——君はそれを拒んだが——若干の金員を借りようとした——といふのは、予は卑劣な方法で金を取立てることは得爲ないからだ。眞實、百姓共の彼の硬い掌から穢しい端金を振取る位なら、此心臓を貨幣に鑄させて滴る鮮血の一滴々々をドラクマの代りに使つたほうが優だ。予は部下に拂ひ渡す金を借りにやつたのだに、君は拒んだ。それがカシヤスらしい行爲か？ プルータスがカシヤスにあんな返辭をしたであらうか？ マーカス・ブルータスが目腐れ金を親友に借むほどに、さほどに鄙吝となつたならば、お、神々よ、速かに天雷を下して彼れを微塵となさせたまへ！

カシヤ

予は拒んだ覚えはない。

ブルー

いゝや、拒んだ。

カシヤ

拒んだ覚えはない、屹度予の返辭を傳へた奴が阿呆なんぢや。……ブルータスの言つたところで此心は突裂かれた。其友の過失を忍耐してくれてこそ親友であるのに、ブルータスは予の過失を其實よりも大きくしようとする。大きくはしない、予に對してすらそれを行ふから止むを得ないのだ。

カシヤ

君は予を愛してゐない。

ブルー

君の過失を好く譯にはいかん。

カシヤ

親友は決してさういふ過失なんか見附け得ない筈だ。

ブルー

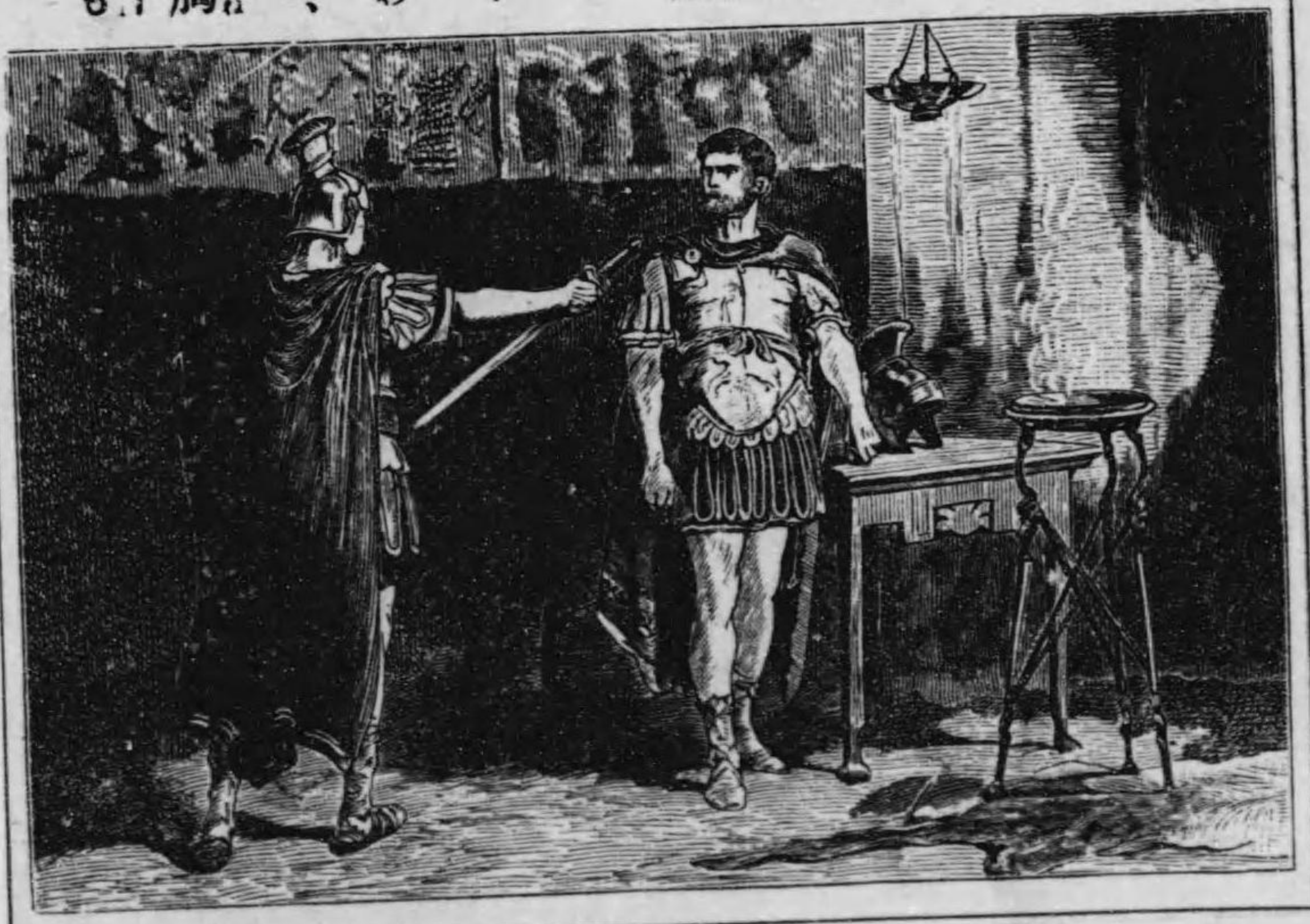
誂諛者なら故と見んやうにもするであらう、オリンパスほどの大きな過失をも。

カシヤ

來をれ、アントニー！ 青二才のオクテーギヤスも來をれ！ 予ばかりを敵



にして思ふ存分にやつつけてくれ。  
 カシヤスはもう此世に厭き果てた。  
 愛する友には憎まれ、兄には侮辱さ  
 れ、奴隷のやうに罵り辱しめられた  
 以上は、ありつたけの過失を數へ立  
 て、手帳に書留めて、熟讀し暗誦  
 して我面へ叩き附られた以上は、  
 おゝ！予は悔し泣に泣いてく  
 命を泣きつぶすことも出来ようわ  
 い。さ、こゝに予の短劍がある、さ、  
 これが予の赤裸々の胸ぢや。此胸  
 の中にはブルートーの金庫よりも



ブルー

大切な、黄金よりも、貞に貴い心の臓がある。君が見事羅馬人なら、それを  
 取れ。金を君に拒んだ予が、君に自分の心の臓をくれてやる。さあ斬れ、  
 君がシーザーをやつつけたやうに。君はシーザーを最も深く悪んでゐた  
 時でも、カシヤスを最も深く愛してゐた時よりは愛してゐたんぢや。  
 鞘へお容れなさい劍を。怒りたい時には怒るが可い、思ふ存分に。君が  
 如何な不名譽なことをしようも、一時の氣分と見ておくから。おゝカシヤ  
 ス！君の相手は小羊だ、怒氣を帯んだとても、燧石が火氣を帯ぶやうなも  
 のだ、手酷く衝突られ、ば火花を發するが、直又冷たくなつてしまふ。

カシヤ

此カシヤスは、ブルータスの好い慰みになるために、好い笑草になるために、  
 今日まで生きてゐたのか？憤慨に堪へないでゐるのに、持病の疝癩に苦し  
 められてゐるのに！

ブルー

つい、然う言つたけれども、それは其ついで疝癩の餘りに言つたんだ。



カシヤ え、さうまでに言つてくれるか、君？……手を下さい。

ブルー (握手して) 此心をも。

カシヤ お、ブルー、タス！

カシヤス 泣く。

ブルー どうしたんだ？

カシヤ 君は予を堪忍してくれるだけの深切心はないのか？ お袋の遺傳の疳癩の爲に、つい前後を忘却する事のある時分に。

ブルー 堪忍するよ、カシヤス。これからは、君が予に無理な事を言つたら、あゝ又お袋が啗々言ひ出したのだと思つて、氣にかけんことにしよう。

奥にて騒がしき人聲

詩人 (奥にて) 大將がたの様子を見て來ませう。何か仲たがひをしてござるやうぢや。さしむかひにして置くのは好くありません。

ルシリ (奥にて) 往かんはうが可い。

詩人 (奥にて) いや、生きてる以上は往きます。

詩人出る。あとよりルシリヤス、タイチニヤス、及びルシヤス出る。

カシヤ 何ぢや！ 如何したんぢや？

詩人 御大將がた、如何したものでげす！ 如何いふ御料簡でげす？ 愛しあう

て仲よしどちとならせませ、いさかひたまふ年齢でなし。わが言葉聽入れたまへ、お二方、あなた方より年長の我れ。

カシヤ は、は、は！ 此口悪屋めが思ひ切つた腰折を並べをる！

ブルー あつちへ行け、あつちへ。無禮者め、あつちへ！

カシヤ 堪忍なさい、ブルー、タス。これは彼奴の癖です。

ブルー 場所柄さへ辨へてすれば、恕してもやるが。駄洒落歌を詠む阿呆者が戰場に何の用がある？……あつちへ行け！



カシヤ あつちへ〜！ ひつこめ。

詩人入る。

ブルー ルシリヤスとタイチニヤスは、將校共に今夜軍隊を宿泊させる準備をせいと吩咐けて下さい。

カシヤ さうして君達には、メツサラをつれて直に戻つて来て貰ひたい。

ルシリヤスとタイチニヤスと入る。

ブルー ルシヤス、酒を持って来い。

ルシヤス 入る。

カシヤ 貴下があんなに腹を立てようとは思はなかつた。

ブルー 予には種々堪へられない悲痛があるのだ。

カシヤ 偶然の不幸なんぞは、例の哲學でお諦めなさるのが當然ぢやありませんか？

ブルー これ以上に忍び得る者はない。……ポオシヤが死んだのだ。

カシヤ やッ！ ポオシヤが！

ブルー 死んだのだ。

カシヤ ようまあ予は殺されなんだぞ、さうとも知らず貴下にあんなに腹を立てて！ おゝ實に残念とも痛ましいとも言ひやうのない大不幸ぢや！……どういふ病氣で？

ブルー 予と永く別れてゐるのに堪へかねたのとオクターギヤスとマーク・アントニーが合體して勢力が強大となつたのをば苦に病んで——二人が合體した事は妻の死去と一しよに知らせて来た——それで精神が錯亂して召使の者が居らん間に、火となつた石炭を呑んだのです。

カシヤ さうして亡くなつたのですか？

ブルー さうだ。

カシヤ おゝ神々！



ルシヤス 酒と蠟燭を持って出る。

ブルー 妻の事はもう言はんことにして下さい。……酒盃を下さい。此中へ一切の無情を埋めてしまふのです。

カシヤ 貴下の酒盃をば、眞實かたじけなく頂戴します。……ルシヤス、注いでくれ、なみ／＼と溢れるほど。ブルータスの愛は幾ら傾けても尙足らん位ぢや。

ブルー お入りなさい、タイチニヤス。……

ルシヤス 入る。

メツサラ をつれてタイチニヤス 出る。

ようお出なすつた、メツサラ。……さ、この蠟燭の周囲へ集つて、緊急の件を協議しませう。

カシヤ あゝ、ポオシヤは逝つちまつたか？

ブルー もうそれは止して下さい。……メツサラ、予はこゝに通信を受取つてゐる、

それによると、オクテーギヤスとマーク・アントニーが大軍をひきゐて攻寄せるといふことです、急にフィリップバイの方へ進軍して。

メツサ わたくしも同主意の通信を受取つてをります。

ブルー 何等か別報が添はつてゐましたか？

メツサ 公敵宣言をいたしました上に、國法保護撤回をも行ひまして、オクテーギ

ヤス、アントニー、レビダス三人の手で、一百名の元老官を死刑に處したと申すことです。

ブルー 其點は予の受取つた通信と合はん所がある。予のには其公敵宣言で刑せられたのは七十人の元老とある、シセローも其一人で。

カシヤ シセローも其一人！

メツサ シセローも殺されました、其公敵宣言で。閣下は奥さんからの御通信をお受取になりましたか？



ブルー いゝや。

メツサ 奥さんの事は、通信に何も書いてありませんでしたか？

ブルー 何にも。

メツサ それはどうも不思議ですなあ。

ブルー 何故それを訊くのです？ 君の受取つた通信中には、何か妻の事がありましたか？

メツサ いえ、何もその。

ブルー これ、君が羅馬人である以上は、事實をお話しなさい。

メツサ では、閣下も、羅馬人らしく、わたくしがお話し申すことをお耐へ下さい。

……奥さんはお果なさいましたぞ、しかも奇怪な方法で。

ブルー では、ポオシヤよ、さやうなら。……人間は死なざるを得ないものです、メツサラ。妻も早晚死すべき筈のものぢやと悟れば、忍ぶことが出来ます。

メツサ 偉い人は、さういふ風にして、えらい悲痛をも忍ぶのですなあ。

カシヤ 理法上では、予も貴下同様に修行してゐるのだが、性が逆も忍び得ない。

ブルー さ、活きた仕事に取掛りませう。……直ちにフィリップパイへ進發する事の利害を、君は如何思ひます？

カシヤ 予は利だとは思はん。

ブルー 其理由は？

カシヤ それは斯うです。敵をして我軍の存在を探さしめるはうがよろしい。さすれば敵は其力を浪費し、其兵士を疲勞させ、おのれ自身に害を加へることになる、其間我軍は、じつとしてゐるから、十分休息もすれば防禦の準備も出来る、随つて敏捷活潑であるといふ利益が生ずる。

ブルー 善い理由も更に善い理由があれば棄てなければならん。フィリップパイと此地の間に住んでゐる人民は、止むを得ずして我黨に好意を表してゐるので



ある、それは彼等が厭々徴發に應じたのでも分る。で、若し敵軍が彼等を  
経過して進軍し来るやうであると、必ずや彼等を身方にし、大いに新手の  
人数を加へ、英氣を幾倍して攻寄せて來ることになるであらう、然るに若  
し吾々が此等二心の徒を我軍の後へにして敵をフィリップパイで逆へ撃つや  
うにすれば、さういふ利益を悉く敵軍から切離すことが出来る。

カシヤ 併し大兄――

ブル― 失禮ながら。……且又考へて貰はんければならんことは、吾々は身方の者  
に最早最上の力を盡させてゐる、吾軍隊は英氣既に溢れてゐる、即ち我軍  
機は熟し切つてゐる。敵の兵力は日毎に加はるが、頂點に達した我兵力は  
今にも衰へんとしてゐる。潮時は人間の行動にも有る、満潮に乗じて事を  
行へば首尾よく運ぶが、其機を誤るといふと、一生中航海毎に淺洲暗礁に  
乗上げて、淺ましい最期を遂げる。我軍は今丁度満潮の海に浮んでゐるの

だ、此潮流を利用するか、難船して貨物を失ふか、何らかを取らんけりやな  
らん。

カシヤ では、貴下のお好み通りになさい。此方から進んで行つて、フィリップパイで

逆へ撃つことにしませう。

ブル― 話をしてゐたら知らん間に夜が更けた。自然の必要に逆らふことは出来

ん、お互ひに少し眠て疲れを休めよう。もう何も言ふことはあるまい？

カシヤ もうありません。……お寝みなさい。明朝は早く起きて出發しませう。

ブル― ルシヤス！……

ルシヤス 出る。

予の上衣を。……

ルシヤス 入る。

御機嫌よう、メッサラ。……お寝みなさい、タイチニヤス。……カシヤス、カ



シヤス君、さやうならお寝みなさい。

カシヤ お、大兄！ 宵にはつい不慮い事でしたが、二人の間に二度とかういふやうな行違のないやうに！ ねえ、ブルータス、二度とは。

ブルー よろしい大丈夫。

カシヤ お寝みなさい。

ブルー お寝みなさい。

メツサチ 御機嫌よろしう。

ブルー さやうなら、諸君……

カシヤ、タイチニヤス及びメツサラ 入る。

ルシヤス 上衣を携へて又出る。

上衣をくれ。……貴様の樂器は何處に在る？

ルシヤ こゝに天幕の中に在りまする。

ブルー や！ 眠さうな返辭をするなう！ かあいさうに、無理もない。貴様は眠

が足らんのだ。クローディヤスと他に誰れか部下の者を呼んでくれ。此天幕の蒲團の上に眠させておかうと思ふから。

ルシヤ ヴーロー！ とクローディヤス！

ブルーとクローディヤス 出る。

ブルー お召になりましたか？

ブルー どうか君たち此天幕の中で眠ててくれ。後程カシヤスどの、許への用で起すかも知れんから。

ブルー では、張番をいたいてゐまして、御意を俟ちませう。

ブルー それには及ばん。横になつてゐて下さい。考が變るかも知れんから。……こりやルシヤス、書籍は此處にあつたわい、先刻搜いた書は。上衣の衣囊へ容れといたのだつた。



ワーローとクローティヤスと横になる。

ルシヤ

たしかにおあづかり申した記憶はないと思ひました。

ブルー

堪忍してくれ、手は大へんに忘れつぼくなつた。……眠いだらうが、少との間耐へて、一二曲楽器に觸つてくれんか？

ルシヤ

はい、かしこまりました、お氣に入りますなら。

ブルー

氣に入るとも。氣の毒だなう、併し善う言ふことを聴いてくれる。

ルシヤ

これはわたくしの義務でござります。

ブルー

貴様の力以上の義務をさせてはならんのだ。若いうちは眠い筈のものだからなう。

ルシヤ

眠ましたのでござります先刻既。

ブルー

そりやかかつた、又眠るが可い。長くは引張らん。……予が生きてゐれば可愛がつてやるぞ。……

ルシヤス 楽器を弾じて歌を唱ふ。

さてく、眠い節だ。お、感覺を殺す睡眠が樂を奏してゐる此少年の頭の上へ鉛の槌を打下すと見える！……小僧よ、寝めく。起すのさへ氣の毒でならん。……がつくりと俯向くと樂器を毀すぞ。……此方へ取つといてやらう。……小僧よ、寝めく。……かうつと、かうつと。讀み残いた處が折つてないかな？ ……む、此處だつたらう。……

シーザーの亡靈出る。

どうも暗い蠟燭だ！……や！ だれだ、そこへ来たのは？……こりや目の故であらう、あんな奇怪な者の見えるのは。……此方へやつて来る。……何か其處にゐるのか？……貴様は何かの神か、何かの精靈か、何かの惡魔か、おれの血を冷くし、身の毛を彌立たせる貴様は？ 言へ、貴様は何者だ？ お前に祟をする精靈だ、ブルータス。

亡靈





ブルー 何故来た?

亡霊 フィリップバイで又逢ふといふことを知らせに。

ブルー よろしい。では又逢ふのか?

亡霊 さうだ、フィリップバイで。

ブルー では又フィリップバイで逢はう。……

亡霊 消える。

や、勇気が附いたと思つたら、消えッちまつたな。あゝまだ貴様に言ひたいことがあつたに……こりや! ルシヤス!……ワロー! クローディヤス! 起き

てくれ、起きてくれ! クローディヤス!

ルシヤ 此絃は役に立ちません。

ブルー まだ弾いてゐる氣だ。……ルシヤス、起きろ!

ルシヤ へい!

ブルー ルシヤス、夢を見てゐたか? 貴様は大きな聲をしたぞ。

ルシヤ わたくしは存じません大きな聲をしましたのを。

ブルー いや、したぞよ。何か見たか?

ルシヤ いゝえ、何も見ません。

ブルー 眠ろ、又眠ろ。……こりやクローディヤス! (ワローに) こりや貴様! 起

きろ!

ワロー へい!

クロー へい!



ブルー 何故お前たちはあんな大きな聲をした、眠てゐて？

クロー へ、いたしましたか？

ブルー うん、何か見たか？

ヴーロ いゝえ、わたくしは何も見ませなんだ。

クロー わたくしも何も。

ブルー あつちへ往つてカシヤスどのに宜しくと言つて、それから早朝に部下をひ

きゐて先發してくれられるやう傳へてくれ、予等は後から往くから。

ヴーロ かしこまりました。

皆々入る。

\* \* \* \* \*

### 第五幕

#### 第一場——フィリップバイの平原。

オクテーターギヤス、アントニー及び其軍勢出る。

オクテ

アントニー、到頭此方が望んだ通りになりましたぞ。貴下は、敵は侵つて

来ないで、岡の方や小高い場處を守るだらうと言はれたが、さうでなかつ

た。敵の軍隊は咫尺に迫りました。彼等は此處で、フィリップバイで、此方か

ら仕掛けんうちに逆襲する積りと見えます。



アント

へつ！ 彼奴等の腹は分り切つてゐる、予は何故彼等がさうするかを知つてゐる。内々は他處にゐたいのであるが、わざと怖ろしげな擬勢を示して侵つて来たのです、かういふ様子を見せたなら、勇敢な敵だといふ感じを吾々に與へるだらうと思つて。ところがねつから勇敢ぢやあない。

使者出る。

使者

將軍がた、御準備なさい。敵はいかにも勇敢げに寄せてまゐります。血の色をした開戦の標を陣頭に掲げて



をります。直に何かせねばなりません。

アント

オクターギーヤス、しづかに貴下の軍隊をお進めなさい、平原の左手の方へ。

オクテ

予は右手へ往きます。左は君に頼まう。

アント

何故、かういふ際どい場合に、予に反對をなさるんだ？

オクテ

反對ぢやあない。が、予は反對側へ往きます。

進軍の樂。

太鼓。ブルータス、カシヤス及び其軍隊出る。ルシリヤス、タイチニヤス、メツサラ及び其他も出る。

ブルー

敵は、止つた所を見ると、陣頭會見をする氣らしい。

カシヤ

タイチニヤス、君はちやんと控へてゐて下さい。吾々は出ていつて問答をせにやならん。

オクテ

マーク・アントニー、開戦の合圖を與へようか？



アント いや、シーザー、先方から掛かるのを俟つて應じませう。……陣頭へお進みなさい。敵將共は何か言はうとするのらしい。

オクテ (軍隊に合圖をするまで動かぬ)

ブルー (アントニー等に對つて) 手を下すに先だつて言を盡す。國人よ、さやうか?

オクテ お前たちのやうに、手を下すよりも言を弄することを好むが爲ではないぞ。

ブルー オクテーギヤス、正しい言は邪曲な手に優りますぞ。

アント ブルータス、君は正しげな言を口にしながら邪曲な手を下いた男だ。シー

ザーの胸部を貫きながら、君は「シーザー萬歳!」と叫んだ男だ。

カシヤ アントニー、君の手の味はまだ知らんが、君の言は實に甘い、ハイブラの蜜

蜂も爲に其蜜を奪はれてしまふ。

アント 針も奪はれはしませんかな?

ブルー お、其通り、其聲までも奪つたのだ。それなればこそ、刺す前にがや〜

と口がしこう人を威す。

アント 奸賊めら! 貴様らこそさうしたのだ、シーザーの身邊へ群り競つて卑劣

な短劍を揮つた時分に。貴様らが猿のやうに齒を露し、獵犬のやうに尻尾

を揮り、奴隷のやうに腰を屈め、シーザーの足に接吻してゐる其途端に、罰

當りのカスカが、臆病犬の如く後から飛びかゝつて、シーザーの頸元を斫

つたのだ。お、此諂諛者めら!

カシヤ 諂諛者だ! ……おい、ブルータス、御自分に禮をお言ひなさい、今日こんな

無禮な雑言を聞くことはなかつたんだ、若しカシヤスの言ふことが通つた

なら。

オクテ さあ〜、開戦! 言葉戦にすら汗を流すやうなら、實際の勝負では血の汗

を流すであらうぞ。……見い。……徒黨の者に對して抜いた此劍が、何時鞘

に戻ると思ふ? シーザーが受けた三十三ヶ所の傷が、悉く復讐されるま



では、若しくは第二のシーザーまでが叛逆人の劍の錆とならん限りは、決して其鞘には戻らんぞよ。

ブルー シーザー、お前は叛逆人に殺されることは出来んぞ、お前の仲間中に叛逆人がゐればともかくも。

オクテ さうもあらう。予はブルータスなどの手にかゝるやうに生れついてはゐない。

ブルー おゝ、若輩者めが！ お前がどんな立派な血統であらうと、ブルータスの手にかゝるのは此上もない名譽であらうぞ。

カシヤ そんな名譽を興へるだけの價値のないやんちや小僧に、同伴つて來た狂言好の大酒家め。

アント 相も變らぬカシヤスだ！  
オクテ さあゝ、アントニー。あちらへ！……叛逆人共、其雜言は貴様等の面上

へ叩き戻す。今日、敢て戦ふ勇氣があるなら、戰場へ出い、無くば氣の向いた時分に。

オクテ：ギヤス、アントニー及び其軍隊入る。

カシヤ さあ、此上は、風が吹かうが、波が立たうが、船が泳がうが！ 暴風が來た以上は、もう一かばちかだ。

ブルー こりや！……ルシリヤス、おい、一寸話がある。  
ルシリ へい？

ブルー：タスとルシリヤスと離れて話をする。

カシヤ メッサラ！  
メツサ 何ですか、將軍？

カシヤ メッサラ、今日は予の誕生日ぢや。カシヤスは丁度今日生れたのぢや。手をくれい、メッサラ。お前證據人になつてくれ、予は、不本意ながらボンペ



イ 同様に、吾々の大切至極な自由を悉く此一戦に賭してしまはんければならんことになつた。君の知つてる通り、予は平生エビキュラスを信じ又其説を奉じてゐたが、今は心が變つて、物の前兆といふことを信じかけて來た。サーデイスから此處へ來る途中、二羽の大鷲が偶然陣頭の旗標の上へ降り止つて、兵士が手で以て與へる餌を貪り食ひ、フリッパイまでは從いて來たが、今朝になつて、何處へか飛去つてしまつて、其代りに鴉だの鳶だのが吾軍の頭の上を飛び廻り、まるで吾々を死にかゝつてゐる餌食のやうに見下してゐる。彼奴等の影は不吉な忌はしい天蓋で、吾々は今にも亡者にならうとして其下に臥てゐるといふ風に見える。

メツサ

そんな風にお信じにならんがよろしい。

カシヤ

必ずしも信じちやゐない、予は勇氣充滿してゐて、毅然としてあらゆる危険にぶつゝからうとしてゐるんぢやから。

ブルー

(ルシリヤスとの話を了りて) その通り、ルシリヤス。

カシヤ

さて、ブルータスとの、願はくは今日神々の冥助によつて、戦ひに勝つて、お互ひに平和時代の親友となることを得て、老年までも睦じく暮らしたいと思ひます！ 併し人生の事は常に不定ですから、萬一最悪の結果となつた場合には如何すべきかといふことを考へておきませう。若し此戦ひが不利となれば、お話をするのもこれが最後です。其場合には貴下は如何なさる決心ですか？

ブルー

曾てケートーの自殺を——其理由は明かでないが——非難した其哲學上の原理に照して考へると、將に來らんとする災厄を恐れて自ら命數を縮めるは卑怯な振舞だと思ふ、むしろ忍耐して下界の吾々を支配する或高い力の攝理を俟つのが當然です。

カシヤ

では、敗軍となつた場合に、貴下は捕虜となつて羅馬の街頭を引廻される



のを甘んじようといふのですか？

ブルー

いや、決して。君は立派な羅馬人だ、ブルータスが羅馬へ引かれてゆく

なぞとお思ひなさるな。そんな目に逢ふには彼れの精神が大き過ぎます。

それはさうと、三月十五日に始めた業は今日を以て終局とせねばならん。

お互ひに又と逢ふか逢はんか圖られんから、永訣をしておきませう。……

いつまでも又いつまでも御機嫌ようお暮しなさい、カシヤス！ 若しまた

逢へたら、此告別を笑はうし、逢へなんだら、よい時に告別をしたと思はう。

カシヤ

いつまでも又いつまでも御機嫌よろしうお暮しなさい、ブルータス！ 若

し又逢へたら、いかにもお互ひに笑ひませう。若し逢へなんだら、成程、斯

うして告別をしておけば、心残りがないといふものぢや。

ブルー

さあ、此上は、進軍しませう。……おゝ！ 其日の仕事の結果を豫め知るこ

とが出来たならば！ 併し日に果がある以上は、やがて事の果も知られる

道理だ。……さあ〜！ あちらへ！

一同入る。

第二場——同處。戰場。

警鐘亂打。ブルータスとメツサラ出る。

ブルー

メツサラ、急いで早馬で此書類を向う側の諸隊へ渡してくれ。……

警鐘さわがしく鳴渡る。

すぐに攻掛らしてくれ、オクテーギヤスの一翼は如何にも勇氣沮喪して見  
えるから、突然襲撃すれば一みじきになるであらう。メツサラ、早く、早く、



大急ぎで。一度に攻掛らしてくれ。

二人とも入る。

第三場——戦場の他の一部。

警鐘亂打。カシヤスとタイチニヤス出る。

カシヤ おゝ！ 見い、タイチニヤス、見い、あの畜生めら逃げやあがる。つい予までが身方に對して敵の役をしてしまった。この旗手め、逃出しやあがつたので、卑怯者を誅戮して旗をこつちへ取つちまつた。

タイチ おゝカシヤス！ プルータスが早まつて號令を掛けられたのです。オク

テーギヤスを襲つて利を得たので、あの人の部下の兵が好い氣になつて、夢中で分捕なんかはじめてゐるうちに、此方は悉くアントニーに圍まれてしまつたのです。

ピンダラス出る。

ピンダ もつと遠くへお逃げなさい、旦那さま、もつと遠くへ。マーク・アントニーがもう御陣所へ乗込みました！ ですから早くお逃げなさいまし、カシヤスさま、もつとすつと離れたところへ。

カシヤ 此丘はずつと離れてゐる。……あれを見い、タイチニヤス。あれは予の天幕か、火の手の揚つてるのは？

タイチ へい、さやうです。

カシヤ タイチニヤス、若しお前が予を思つてくれるなら、直に予の馬に乗つて、思ひ切り拍車を入れて、あれあの軍隊まで驅けて往つて又直に驅戻つてくれ。